

幼児の教育

第五十一卷 第七号

日本幼稚園協會



7

紀

フレーベル館の新学期用品

No. 41 幼児指導要録
B 5判、4頁、文部省御制定の制式のも
のです。 定価一部 5円

**No. 42 幼児指導要録の趣旨と
その取扱いについて**
本社作成幼児指導要録30部お買上につい
て1部添付するものですが、本パンフレ
ットだけの御用命にも応じます。
定価 4円

No. 43 指導要録表紙
定価 50円

No. 45 保育日誌
大変御好評をいただきました保育日誌、
諸先生方の御要望に応えルーズ・リーフ
式にして御便利をはかりました。用紙イ
ンク止め完全、厚上質表紙を添えて50枚
に付
定価 200円

No. 47 園籍簿
定価1枚 2円50銭

No. 48 身体検査票
B 5判、文部省令第7号学校身体検査規
程による制式のもの 定価1枚 2円50銭

No. 49 父母への報告書
B 5判 定価1枚 2円50銭

No. 50 園のたより
A 6判24頁 定価 15円

No. 51 同カバー 定価15円

No. 53 卒園臺帳
B 5判 定価1枚 2円50銭

No. 55 保育料袋
定価1枚 2円50銭

No. 56 保育證書(A)

No. 57 保育證書(B)
AはB 4判、BはB 5判
定価A 10円 B 7円

No. 58 園児募集ポスター(A)

No. 59 同 (B)
AB 2種あります。大きさは約1尺3寸
× 2尺幼稚園、保育所共用
定価 A B 各 15円

No. 72 出席簿 (縦型)
定価 1枚 2円50銭

No. 101 出席カード
A 5判13枚(表紙共) 定価 30円

No. 102 出席カード用カバー
定価 15円

No. 103 出席カード用貼紙
10人分12ヶ月一箱 定価 200円

No. 111 むりえ (初級)

No. 112 同 (上級)
B 5判各16枚 定価各 35円

No. 116 えとむりえ (No. 1)

No. 117 同 (No. 2)
B 5判各16枚 定価 各 35円

No. 118 おさいく帳
B 5判 12枚 定価 30円

No. 126 自由画帖 (A)

No. 127 同 (B)
定価 A 35円 B 28円

No. 131 折紙 (特製5寸) 定価55円

No. 132 同 (〃 4寸) 定価40円

No. 133 同 (並製5寸) 定価40円

No. 134 同 (〃 4寸) 定価30円
以上いずれも1色100枚包の値段です。
色の種類は12色。(並製は11色)

No. 156 まんてんくれよん(10色)
定価 50円

No. 157 同 (8色) 定価40円

No. 158 お道具箱 定価60円

No. 160 鋏 (先丸鋏) 定価35円

No. 168 茶のしいおしごと
お茶の水の及川先生の新しい企画にな
る工作の本です。 B 5判16頁定価45円

No. 171 組別名札 (桜型)
両面色紙ばり、色の種類は赤、黄、緑、
白、桃、樟、水色の7色 定価1組2.9円

No. 74 園のたより用ゴム印
定価1組 12ヶ 200円

No. 65 在籍記録
B 4判 定価 2円 50銭

発行所 東京都千代田区神田 株式会社
神保町二丁目四番地

フレーベル館 振替口座東京
一九六四〇番

幼 児 の 教 育

第五十一卷 第 七 號

昭和二十七年七月

目 次

表 紙	中 川 紀 元
幼児の帰つた後のしま	倉 橋 惣 三…(2)
夏期に於ける幼児健康上の注意	広 瀬 興…(4)
幼 児 の 性 教 育	平 井 信 義…(12)
どんな幼稚園がよい幼稚園でしょうか(上)	小 川 正 通…(16)
谷間におちた保母のうた	鈴 木 と く…(22)
蜜蜂の世界から	岡 田 一 次…(30)
アメリカ童話から(17)	松 原 至 大…(34)
京都の保育界	柳 沢 静 子…(40)
個別指導について—記録法による—	国 分 順 子…(44)
第五回関東保育研究会	高 橋 寿 美 夫…(48)
(官庁公示連絡事項)	
幼稚園教育理解のために	(50)
日本幼稚園協会主催保育講習会	(29)
幼稚園教員免許法認定講習会	(29)
日本保育事業大会予告	(39)
会 か ら	(52)

編 集 主 幹	倉 橋 惣 三		
協 力 委 員	牛 島 義 友	及 川 ふ み	齋 藤 文 雄
	多 田 鉄 雄	波 多 野 完 治	山 下 俊 郎
編 集 委 員	西 山 浪 太 郎	(五十音順)	

発 行

日 本 幼 稚 園 協 會



幼児の歸つた後のしぐま

倉 橋 惣 三

保育は幼児の歸ると共に終る。しかし、先生にとつて大切

なのは、その後である。しぐまなんて、氣どつた時間がある訳ではないか、おかえり、さようならの後しばらく、小半ときか、そのどや／＼のおさまつた一とき、あたりがしいんとする時がある。先生のほつと思をするときであり、ひとり椅子にからだを投げるときであり、だまつて目を閉ぢるときであり、ぼんやり窓から外を見るときであり、なんというところもなく庭へ出てぼつねんと木の下に立つときでもある。なにも一々そういうしぐまをするときという訳ではないが、動きづめのからだに、ちよつと憩いが与えられ、子供を見るにのみ忙しかつた目が内に向き、子供を追つていた心が自分というものに歸る時間である。

それが余り長くなると、眠りに落ちて仕舞うこともあるがまどろむでもなく、況んやぐつすりでもなく、うつとりと、保育の酔いを味う瞬間というか、快いというも強すぎる。

楽しいというも興じすぎるが。

保育の味は元來が淡いものである。中に甘味も苦味も含まれていながら、そのあとあじの淡さは、よい茶の服後に似るべきものである。茶の味は飲んでゐる間よりも、残る後味にある。一滴の玉露でも、大ふくの濃茶でも、味わうともなきおのづからな後味が貴い。それを、あわたゞしく座を立つては惜しい。

保育も、といつて、素より、その香味の質もその味わい方も一つではないが、子供たちの歸つた後の一ときの貴さという点に委りはない。そうして、その後味を粗末にする人とは共に保育を語りあえないといつてよからう。

保育が幼児のために何を残すかは、素より大切なことである。がまた、保育が日々にわれらに何を残すかも貴重なことである。朝に保育の目的と企画があり、昼に保育の過程と実

際があり、その過程と実際に、幼児と一つに我れを忘れる没頭があり、かくて、保育のために働くわれらの日々が過ぎてゆくのであるけれども、われらは、その、たゞに過ぎゆくことだけでいゝものだろうか。残すものは、たゞ幼児への業績だけであつていゝものだろうか。保育三年、われに何が残るのだろうか。保育五年、われに残るものは何んであるうか。而して、保育十年、たかゞその業績の記録が残るだけでいゝだろうか。その業績も、小さいものでは決してないが、必ずしも著しいものではなく、とり立てゝ大に酬いられるものでもない。少くも、あまり大きく酬いられようと思つたら、恐らく失望させられることも多いであろう。根を培うものは必ずしも思い通りの大輪を期待し難く、希望通りの果実を收穫し得ないかも知れないからである。少くも一日々々の保育の業績を重ねてわれひと、目をみはることはできないであろう。残るものは、日々に味う保育の香の、忘れ難い思い出である。後に残るとも知らなく、人に告げようもなく、その日その日に快よい酔い心地こそである。

快よい酔い心地というけれども、その快さの中には、疲れもあり、苦勞もあり、一人々々の子供に濟まなかつたと思う悔恨もないではない。うつとりとしたまの中に、浮び出てくるものは、幼児のあの笑顔であると共にあの泣き顔である。馳けぬけて得意な顔であると共に、すべりころんで涙面つくる顔である。寄り添うてくるまるい肩と共に、時には不

機嫌に淋しい背を見せて馳けて去る後ろ姿がある。今頃はあの町を、足踏み鳴らして帰つてゆくと思つ子を追いかけて、後ろからその肩に手をかけたくなることもある。今頃はあの峠道を、とぼゞとひとりゆくと思つ子に追いついて、さつきの不愛想を詫びたくなることもある。なぜそんな歌い方をすると叱つておいて、すぐそのあとから自分でも歌いそくなつた失敗を、ひとりで可笑しくなることもあり、やめない泥いたづらをやめさせようとして、却つて子供のエプロンを泥だらけにした不手際に、ひとりできまり悪く思い出すこともある。こまかくは、あのとときの返事の気のなさ、答え方のまづさ、子供とした約束を、うつかり忘れていたこと、子供の喧嘩に気短かな仲なおりをさせたこと、あれやこれや、人知れず頬をあかめることもある。しかも、それらがどれも、これもひきくるめて、ほんのりと保育の香を味わせてくれるのである。敢て、保育の反省といわれない。保育の経験ともいわない。初夏の風かおる午後そいう貴いしどまが、先生方によくあるのである。

このしどまから、ふとわれに帰つて、保育室のあとかたづけが始まる。あすの保育の準備が始まる。――帰りを急ぐ先生や、すつかりぐつたりしている先生や、お稽古ごとや、アルバイトに氣をとられ勝ちの先生達には、保育が忙しい仕事としてあるだけだつたり、往々にして片手間仕事として行われるだけだつたりする。――あじけない一日々々ではあ

夏期における幼児の健康上の注意

廣 瀨 興

我国では一年中、七月の梅雨季から八月にかけての夏季は、殊に乳幼児にとつて、最も健康に影響のある時期であつて、その注意の如何によつて、良くもなり、悪しくもなるといえるであらう。それは我国の季節別死亡統計をみても、その間の消息がよく解り特に消化器系疾患が多いのである。

一体、なぜ、かように梅雨季から夏季にかけて健康に悪いかというと、それは、一つには我国特有の氣象状態によるのであつて、我国に於ては欧米諸国とちがひ、夏期高温の頃に却つて高温

高温、高温といふことは、第一に細菌の繁殖に適し、食物は腐敗し易く、伝染病の蔓延に好都合であり、第二に蛔虫、十二指腸虫など寄生虫卵の孵化発育にも最適である。第三に高温高湿は人体にとつて生理作用、新陳代謝機能を不活発ならしめ、従つて、抵抗力が減弱し第四に栄養摂取が量的にも質的にも不足勝ちとなる。第五にそれに加えて、夏期は昼間の長いため、小児は運動過度になり易く、一層体力の消耗が強くなるためである。

こゝに掲げた五つのことはお互に關連し、原因結果となつたり、その中の

一つが重く作用したり、一つ一つは軽くともそれが二つ三つと重つて、一層重く影響し、遂に、病氣にまで進行したりするのである。赤痢にしても、ある小児は軽い大腸カタルの程度で経過するのに、他の小児は同じ細菌で疫痢のように重態となつたりするのである。結局、夏期は一年中、小児にとつて最も抵抗力の弱い時期であるといえるであらう。

【一】

生来、われわれ人体には恒温性といふ特性をもつている。それはわれわれ

が平素、正常な健康を保つてゆく上には常に摂氏三十六度五分から三十七度以下の体温を保持する必要がある。で、大脳内の体温調節中枢によつて調節している。これを恒温性というのである。もし、体内に栄養過剰や気候の過熱のため体温が上昇し、三十七度以上に永くつゞげば鬱熱状態となり、種々の生理作用は遂行されなくなり、反対に、体温が三十六度以下に降りばなしになつても同じで、脱熱状態となつて所謂かぜを引き、つゞいて、いろいろの病気を発生してくる。

それ故、体内に過剰の体温が発生すると、次の三つの方法によつて体外に放熱させようと努める。

第一は呼吸作用によつて冷い吸気が肺胞内に入り、暖められて呼気となつて放熱せられる。

第二に排泄作用のときも、体外に熱は逃げる。

第三は皮膚作用であつて、全体の放熱の八七・五%に当り、(一)蒸発(二)伝導(三)輻射の三つによるのである。

即ち、

(一) 皮膚の表面には一平方糎につき約二百万の汗腺があつて汗を分泌している。そしてその汗が蒸発するときには蒸発熱として体外に熱は放散される。丁度、夏、暑い時、庭先に散水するとその水が蒸発し熱が奪われその附近が涼しくなるのと同理である。従つて、南洋原住民は日本人より汗腺が多く、エスキモーは少いと云われている。気候に対して自然に調節する必要のためである。因に汗腺数は皮膚一平方糎につき、白人一六三万六千、南洋原住人二六八万八千―三三二万三千、日本人一九三万一千―二七五万六千と計算されている。又、犬は汗腺のない動物であるから、夏期、放熱の方法として蒸発作用によること少いため、呼吸を促進させて放熱を補つてるのである。

(二) 伝導作用で身体の周囲が冷めなければそれだけ周囲へ熱が伝つてゆくのは熱力学の原則で、寒い時には着物を厚く着て脱熱を防ぎ、夏は薄着し放熱し易くするのが当然である。

(三) 周囲の温度の如何に拘らず、皮膚の表面から常に熱を放射している。

この三つの方法によつて約九割の熱は皮膚の表面より放散されているのである。かように、皮膚の生理作用は極めて重要で、内臓器管にも劣らないほどの機能を有し、従つて、若し乳幼児が火傷其他で全皮膚面積の三分の一以上が損傷せられると、多くは死の転帰をとるとされるのはこの体温調節が不十分になるという理由がその一つである。

かように皮膚面よりの蒸発や伝導によつて大部分の放熱が行われているのであるから、従つてわれわれの周囲の気象状態即ち気温・気湿・気動の如何が重大な影響をしてくるわけである。

高温・高湿・無風状態のとき、例えば風呂場内のような、或いは一年中ならば梅雨期から夏にかけての気象のようなときは皮膚からの蒸発も伝導も不活発となつて、体内は鬱熱状態となり

生理作用は円滑に行われず新陳代謝は障害され、身体の抵抗力は衰えるようになる。

反対に、低温で乾燥し、しかも、通風甚しければ、皮膚表面より盛に放熱し、遂いには脱熱状態となり、感冒を引き、之れまた病氣にかゝり易くなる。

しかし、今、この三つの組み合わせをかえて、高温でも乾燥し通風がよければ、放熱作用は盛となるし、又、低温でも適當の湿り気があり空気が動かす静かであれば放熱は少く左程に寒さを感じないであろう。即ち、われ々の暑さ寒さの感じはその時の気温・気湿・気動の三つの組合せと、強弱の如何によつて定まり、そして、これがわれ々の生理作用にいろいろの影響を及ぼして来るのである。

この気象関係が如何にわれ々の健康に大きな影響を及ぼしているかを証明する有名な実験がある。二坪ばかりのガラス張りの実験室を造り、数人の人を入れ密閉する。予め室内の酸素、炭酸ガスの量、温度、湿度を測定して

おく。しばらくすると被験者は不快感を覚え、悪心、嘔吐、頭痛、めまい、心悸亢進、呼吸促進を来し、遂いには卒倒失心するに至る。丁度、これは多人数が狭い室に密集したときに、しばしば遭遇する現象と同じである。従来、この原因は酸素の欠乏と炭酸ガスの増加という化学的変化のためと考えられていた。しかし、今、試みに、そのときその室内の被験者に室外の新鮮の空気をゴム管で吸入させても、少しも容体が回復しない。又、一方、室外から、ゴム管で室内の悪い空気を吸入させても、一向に大した障害を起させない。

そのとき、予め室内に備えた大きな扇風器を回転させ、室内の空気を拡はん動揺させると、今迄元氣なく失心しそうになつていた被験者は、しばらくして元氣を回復し、再び、元のように活動的な動作をするようになる。これはどうゆうことを意味するかというところ、かゝる異状は室内の酸素の欠乏や炭酸ガスの増加というような化学的変化のためでなく、室内の物理的変化即ち

気象的影響のためであるということがわかる。即ち、通風によつて体表面の気温、気湿の組合せが變つたため、身体の放熱作用が活潑となり、再び生理作用が回復したものと説明されるのである。事実、炭酸ガスは平素肺胞内に5%常存し、室内が5%以上に増加しなければ中毒現象は起らないもので、然るに、日常室内を5%以上に満すことは在り得ないのである。

この実験は急激な過度の変化であるが、日常生活に於ても風呂場内などで、殊に梅雨期などしばしば経験すること、又、乳幼児に厚着させたり、濡めつばいおしめや肌着を永く使用せしめることなど同理由で、皮膚の放熱作用を妨げ、知らずの間に健康上悪い影響を与え、抵抗力を弱めていることが理解出来るであろう。

この気象関係が生理作用に如何に重要な影響を及ぼすかの理窟が、われ々の日常生活の住み方、着方の基本的条件となるのであつて、殊に、成人とちがつて、發育の途上にあり、生理機

能が未だ極めて未熟である乳幼児にとつて一層重要な事柄である。それ故、梅雨期から夏期にかけて、乳幼児の保健教育もその線に沿うて行われねばならない。只、単に暑さ寒さに耐えるという保育ではなく、このような不良な氣象的影響にも耐えるような体力は、乳児の時代より幼児学童という順序に、除々に、鍛練の良習慣をつけてやるといふ考え方が大切である。わが国の一般家庭では温度の知識はあるが、湿度の知識は比較的少く、前述のような理窟を理解しておらぬため、手近なところに良いと思つて案外誤つた育て方をしている場合がある。例えば、肺炎患児の看護に室内を嚴重に目張りし、火鉢の上に、洗面器をのせ、盛に水蒸気を蒸発させ、その上、吸入器を用いたりすれば、室内は風呂場のように高温高湿無風となり、丁度、人工的に梅雨季を作り、最も悪い氣象状態となる、肺炎は肺組織に炎症を起し、鬱熱状態となるから一層放熱作用の盛んなことを必要とする。従つて、胸部皮

膚に芥子泥を張つたり、温湿布して熱の外部への誘導を試みるわけである。

それを反対に放熱をさまたげるような処置をなし、あまつさえ、炭火によつて一酸化炭素を室内に充満させ、酸素の供給を不能になさしめたりすれば肺炎は却つて増悪するのが当然である。ズルフォン剤やペニシリン療法の發達せる時代に、未だにわが国の肺炎による乳幼児死亡が年三万を減じないのは案外こんなところにその原因があるのではないだろうか。近頃は肺炎の開放療法といつて、天氣のよい静かな日には冬でも窓を開放し、新しい空気を入れることに努めている。それがため、患児は却つて呼吸がらくになり、よく安眠がとれ好成绩を上げてゐる。この理窟は肺炎のみならず、他の病氣の看護の時でも、或いは日常の生活に於ても同じことである。

従つて、その時の氣象状態によつて、室内の温度、通風に注意し、着物の着方など加減するのである。こどもには一日の中に春夏秋冬あり」といふのは

洵に至言である。

殊に、わが国は前述のように六七八月は高温高湿であるから、湿氣を極力防ぐ工夫が必要で、下水をよく処理したり、縁の下の浸水を防いだり、床下の通風、畳をよく日光に干したりなどいろ／＼工夫が肝心である。万年床の習慣など文化國家の恥である。実験によると永く押入れに入れておいた蒲団の目方を、朝測り六疋あつたものが、一日中日光に干し夕方測ると三百瓦減じていた。即ち三百瓦の水(一合五勺)が浸み込んでいたこととなる。意外の水分が含まれているものである。

二二

乳幼児は新陳代謝が旺盛であるから発汗し易く皮膚が汚れがちである。一層肌着は始終乾燥したものを着せるように注意が必要である。

しかし、最も大切なことは、平素、少し位の氣象の變化にも直ちに即応して、その變化に耐えられるよう皮膚を鍛練しておくことであつて、この夏の

季節こそ最も好適の時期であり、そしてこの皮膚鍛練の良習慣はやがて秋より冬に来る今一つの低温乾燥、からつ風というわが国特有の最悪の季節への対策である。

朝起早寝、寝衣の着換え、冷水摩擦、乾布摩擦、入浴の仕方、海水浴、日光浴の仕方、保育所の一泊など子供の家庭や環境にに応じていろいろ工夫や計画が肝要である。

しかし、かような皮膚の鍛練も健康な乳幼児に対して行うべきで、もし、ツベルクリン反応陽性のもので、極めて虚弱のものに対しては、あらかじめ医師の検診を受け、適当の鍛練を行うように注意しなければならない。

【三】

夏期は一般に運動がはげしく、一方前述のように抵抗力が弱まるから、もし、結核など潜伏していると発病の機会を与えることになる。それ故、ぜひ、夏休み前に健康相談を受けるのが賢明である。殊に夏期保育の際には特に注意

せねばならない。

高温高湿は人体には不利であるが、反対に細菌や寄生虫には好適である。

今年是不幸にして、赤痢の流行甚しく、昨年比して約三倍の高率と云われている。

アイスキャンデー、氷菓子などの買ひ喰いの悪習慣をなくし、帰宅後や食前の手洗いの習慣を特に強調したい。

これは子供ばかりでなく大人にも勵行してもらいたいものである。今年流行の赤痢は駒込B₃型といつて比較的軽症に経過するため、却つて蔓延し易く、且つ、保菌者が相当に多く存在していると見られるし、幼児がかよると疫痢として発病するものもあるもので、特に注意せねばならない。生のものを食べたり、外出先での食事など、なるべく、さけるがよい。

幸いに、クロムマセチンの如き特効薬があるから、もし、高熱下痢などが始つたなら、直ちに医療を受け、早期に、短期間に完全に治すがよい。夏期、乳幼児が疾病にかよると、一層、体力

の恢復が遅く、将来の發育に悪い影響を残すことよなるから。

【四】

夏期は、細菌ばかりではなく、蛔虫や十二指腸虫（鉤虫）のような寄生虫も、亦、繁殖に最適である。殊に、蛔虫の蔓延は近年極めて著しく、田舎ばかりでなく、都市に於ても殆んど同率位の浸潤を示している。それは戦争のための不潔や、家庭菜園、生肥の使用などいろいろの原因によるのであろうが、最近の寄生率は八〇—八五%と云われている。量の上、学校の教室など至るところに蛔虫卵を発見される。糞便のみならず、学童の鼻汁の中よりも証明されている。従つて、至るところ蛔虫卵のいないところなしと云つてよい位である。我国では人糞を用いない進駐軍用の野菜畑より産した野菜より蛔虫卵を検出したほどである。

従つて、近年、最も多い感染経路は野菜と風塵であるとされている。殊に驚くのは母乳栄養の乳児が不明の下痢

を訴え、その原因が蛔虫であることがしばしばある。最近、二寸ばかりの蛔虫を六匹排出した乳児を経験している。乳児の場合は検便も余程注意せぬと虫卵を発見しないことがある。

蛔虫卵も排出されたばかりのときは未だ感染力なく、一定の温度（撰氏二六—三二度が最適）と湿度を得ると、卵内に仔虫が孵化し、初めて感染能を得るのである。これを成熟卵という。

それ故、蛔虫卵は、畑の土中などには、一年中、生存しているが、気温の低い十一月から三月頃は発育を停止し、四月頃より漸次発育し感染能力を得、七八月頃には最も寄生率が多いこととなる。

成熟卵は野菜、汚れた手指、爪垢などによつて経口的に食道、胃、小腸に達し、この部で卵内の仔虫が殻を破つて卵外に出て、その大きさは約〇・五耗であるが更に腸壁の血管に入りて肝に至り、次で肺動脈によつて肺臓に至る。今一つの道は腸壁を破つて腹腔に出て上昇し横隔膜を穿孔し肺臓に至る。

いずれにしても、蛔虫卵よりの仔虫は必ず肺臓を通過し、こゝで一定の発育をするということが特徴である。

そして気管支、気管、更に喉頭に至り、それより再び食道を通り、胃、遂に再び元の小腸にかえる。この期にかえるこの期間は約六—八週日を要する。かように体内を一巡して後、初めて漸次発育して、二〇鞭にも及ぶ大きな成虫となるのである。

塵埃などによつて成熟卵が鼻腔内に入ると血行によつて肝や肺に達するものと思われる。実験によると鼻孔内に入つた成熟卵は孵化して九六時間後に肺及び肝に移行したと云れている。かように仔虫は必ず肺臓を通過するためいろ／＼の危険な症状を呈するのである。

蛔虫についていろ／＼特性を述べたが以上によつても、夏期は感染の機会も多く、又、腸内にての成虫発育時期にもなるのであるから、駆虫剤を必ず服用させること（雄虫のみのときは検便によつて虫卵を証明できない）爪を

よく切ること、指をしやぶる習慣を矯正すること、帰宅後や、食前に必ず手を洗う習慣をつけることなど大切である。

家庭としては野菜をよく流水で洗う。実験によると九〇%の附着卵を洗い落すことが出来るという。漬物にも蛔虫卵は生存し、浅漬内で一五日以上感染能を保持していたという報告もある。

平素、蛔虫に感染し易い体質があると云われているが、又、ビタミンA、Bの欠乏は確かに感染を高める。反対に、ビタミンCの過剰も高めるとされている。夏期は殊にビタミンAやBの欠乏し易い時期であるから注意せねばならない。

【五】

夏期は暑さのため、大人は自然、淡泊のものを好み、脂肪分が少量となる。脂肪分が少くなると自然、それに関係のあるビタミンAの欠乏が附随してくる。夏期、夜盲症や弱視の多い

のはその理由である。偏食の習慣のある幼児などは食品の種類の豊富な夏期に注意してこの時期に矯正するがよい。夏期保育などはこの点に注意することが肝心である。土用の「うしの日」に鰻を賞味する習慣も古くからの経験が自然にこの要永を満しているのである。数ある食品中、鰻はビタミンA豊富なものの一であり、夜盲症に「八ツ目鰻」を食する習慣は我國各地に共通である。

ビタミンA豊富な夏の食品としては、人参、大根葉、トマトなどの如く、真黄、真青の野菜、獣魚の肝臓に多く、注意すれば夏期には相当豊富に摂ることが出来る。只、土用中は野菜の少い時であるから注意せぬと、ビタミンCと共に不足することがある。ソル菜、はやと瓜などを家庭に作る事が出来れば便利である。

又、我國の如く、白米を主食とするものは、平素でもビタミンBを必要とするのであるが、七八月のような気候には一層それを要求し、これが不足す

れば、脚気にならなくとも、著しく抵抗力が減ぜられるようになる。その上、夏期は昼間が長く運動もはげしく、従つて、ビタミンBの消費も甚しい故、充分、それを補給することが肝要である。それには麦飯とか、胚芽米、七分搗米などもよいが、なお、胚芽のみを薄く狐色に炒つて、それをやかんで煮出し、麦湯のようにして冷せば、幾分甘味もあり、夏の好飲料となるであろう。子供は夏、炎天にもかゝわらず、運動はげしく、水分の脱出甚しいものであるから、充分に水分を補つてやらねばならない。そのとき、かゝる飲料は最適である。

偏食が、簡単に矯正出来ないものや、虚弱体質のものなどは、なかなか、食餌によつて、短日時の中に、それを補うことは、困難であるから、栄養剤をあたえるがよい。近頃はビタミン綜合剤(ペンピタン、ボンミックスの如き)の優良品や、肝油よりも高単位で、しかも、臭味のないビタミンAD合成品(チヨコラAの如き)が市販されてい

るから、却つて、夏季はこのような栄養剤を与える方が賢明である。

【六】

夏時間となると、夕食後の時間が長く、暑さはきびしく、ところによつて蚊にせめたてられ、大人の就寝時間が遅れてくる。従つて、子供も自然に「宵張り」「朝寝坊」の習慣がつき易くなる。昼は昼で、運動がはげしく、一層、疲労が重なるということになるから、注意が肝心である。それには勿論、その体力や体質に応じて昼間の運動や遊びを加減してやる事が大切である。夜間、うなされたり、夢をみたり、はげしい発汗、夜尿症などが現れるのは過勞の一つの証拠である。又、翌日、なお、疲労の徴候が見えるようならば、これも亦、運動が過度の結果であるから注意せねばならない。疲労を早く回復させるには、第一に充分睡眠をとらせることであるが、長時間、眠らせることよりも、充分、深く熟睡させるよう工夫する方が大切で

ある。それには静かな換気の良い、薄暗い室に眼らせること、蚊や蚤を防ぐこと、衣服をゆつたりとさせ、しかも、寝冷えのないよう腹巻きかズボンをはかせること、寝苦しいときはふとんの上に薄べりを敷いたりなど工夫すること。乳児なれば昼寝に水枕などもよい。

昼間、余り運動し過ぎたり、亢奮したりした時は、特に余り熱くない湯に落ち付いて入浴させると有効である。

又、空腹も満腹もどちらも熟睡を妨げる。便通もよく整えてやらねばならない。夏は多量の発汗や食餌の関係で便秘しがちの子供が多いから特に気を付け、浣腸の必要のこともある。

前述のように、蛔虫の寄生率も多いのであるから、常に駆虫しておかぬと疲労し易くなる。

又、運動がはげしく、空腹の訴えにせがまれ、過度に間食を与え過ぎがちであるから、必要ならば、幼児には却つて、間食を与えず四回食を摂らせるのもよい。そして、必要の栄養量を合理的に与え、殊にビタミンBを充分に

補給することを忘れてはならない。

昼間の遊びの模様には気を付けて、炎天で帽子もかぶらず遊んだり、水も吞まず、一休みもせず遊んだりすることは疲労を増大させる。

【七】

夏期、殊に雨の少い時に流行する夏期脳炎がある。この伝染病は潜伏期は不明であるが、丁度、疫痢のように突然高熱を出して発病し頭痛、倦怠、嘔吐などを訴え、意識不明となり、うわ言を云い、一―二日で昏睡状態となり、痙攣を起し、身体を始終踊るようになり動かし乍ら、狂つて大声で叫んだりする、この病気は未だその病原菌や伝染経路が確定してゐないが、おそろく、ウイルス(濾過性病原体)によつて起り、蚊によつて媒介されるものとされている。我国では近年、毎年この如く、小流行するので、日本脳炎と称して新たに法定伝染病に加えられた。

老人や十才以下の幼児に多く、死亡率はその時の流行によつて、多少ちが

うが、大体、二〇―五〇%である。疫痢のように家族全員に直ぐ伝染するといふような伝染力がないところをみると、人体の抵抗力の弱いときに発病するのではないかと思われる。従つて、炎天下に、無帽で遊び過ぎたり、とんぼ釣りの後で急に帰宅後、発病したりする。夏から秋にかけて、とんぼが飛ば頃、幼児が帽子もかむらず、一日中、炎天下、とんぼを追いかけているのを見るが注意せねばならない。

平素、暑いときは軽い帽子をかぶつて遊ぶこと、時々、木蔭に休息すること、発汗の甚しいときは充分、水を飲むこと、暑中は必ず、昼寝をすること、一是の時間に適當のおやつを与える習慣をつけることなどが大切である。

【八】

以上は夏期に於て、幼児の落ち入り易い病氣に対しての消極的のしつけであるが、反対この季節は樹木と同じように、栄養、睡眠、鍛練によつては、



幼 児 の 性 教 育

— 保育に携わる人に —

平 井 信 義

お手紙ありがとうございます。お元気で毎日の保育にいそまれている由、心からお喜び申します。たゞ、汗つかきの貴女ゆえ、この暑いのに終日かけ歩いていると伺うと、貴女の顔より汗の方が目底に映りますよ。どうぞ体に注意して頑張つて下さい。貴女の様な張切りは、あとから疲れない様、合理的に働くことも忘れないで下さい。暑いとビタミンの消費も多いから、充分補つて下さい。

さて、あなたからの性教育についての御質問、本当に性教育は頭の中で考えると易しいが、いざとなると難しい点が沢山ありますね。私も幼児の性教育についていろいろ考えてみて、一つの体系をつかんだ積りであるのに、いざ面と向つて子供たちから問題をぶつけられる

と、はたと当惑することがしばしばです。昨日も私の子供と入浴したとき、二番目の子供が、体をふいている私の体の一点をしげしげと見ているのです。思わず私は手拭でそこを被つてしまつた、そしてすぐそのあと「しまつた！」と思つたのです。

そんな時こそ性教育のよいチャンスだ、というのが私の日頃の主張。見たい様子があるときは見せる、もしさわりたい様にして手を出したらさわらせる——こんなことをしばしば話もし書きもして来たのです。そのよい手本として、亡なられた星野鉄男教授が、御自分のお子さんと交した朝の会話を思い出しています。御存じですか。「太郎ちゃん、ちんこが大きくなつているね、しつこでたいんでしよう、早くいつてきましよう」といつて用便させ、後しばらくねものがたりをしているうちに、私が何の気なしに、「パパもしつこが出たくなつた」という

と、「パパもしつこ出たいの？ちんこ大きくなつたよ」というので、これはと思つたが、「ああ大きくなつたよ」と答えると、「パパのちんこさわつてもいい？」という珍問を發しました。これはと驚きましたが、私は非人情になつて答えます。「ああさわつてもいいよ」「パパー随分大きくなつてゐるよ。早くいつていらつしやい」「パパ、もうおしつこして来たの、もうちんこ小さくなつた？」「ああもう小さくなつたよ」「もういちどさわつていい？」「ああいゝよ」「ほんとうだ。小さくなつたね、パパ」——この会話を聞いてあなたはどうお考えですか。私には素晴らしい会話だと思えるのです。

2

ところがこんなときに一般の親はどういう態度に出るでしょうか？「そんな下品なことをして！」と、もし手を伸して親のおちんこにさわらうものなら大変ですね。

その手を打つ、或いは灸でもすえかねない勢です。

では、どうしてこの様な二つの態度が生れて来るのでしょうか。

第一に、一体私ども大人に、生殖器に対する正しい理解が出来ているかどうかという問題です。妙な質問になりますが、あなたは生殖器を貴重なものと考えますか、或いは不潔なものと考えますか？——大抵の親は「不潔

なもの」という考えに把えられて、「貴重なもの」という考え方を捨てしまつてゐます。もち論、考え様によつては、生殖器にも不潔な面があります。殊に男の子の陰茎は人体で使われた成分の残滓を排泄する器官でもありません。又、生殖器を用いて人間は人倫に対してよくないことを行うことがあります、それによつて悪いいまわしい病氣などが附着することもあります。しかし、それは「手」だつて同じことだと云えましょう。盗みをする、暴力をふるうなど人倫にもとる行動は、手のすることです。しかしその際に私共は、その人の手を責めないで心を責める——生殖器も、生殖器が悪いのではなくして、みだらなことに生殖器を使う人の心の問題なのです。こんなわかり切つたことが、實際問題に直面すると、逆転してしまふのですね。

それにも理由があります。私共は小さいときから、くり返しくり返し「生殖器」はきたくないもの不潔なものだと教え込まれていのですから。「そんなバツチなことをして」「下品なことを言つて」「助平」などと、生殖器に関する一切切劣等視して教えられて来たことを思い出しますね。生殖器に関する事で、「いゝこと」は一つも教えられなかつたのですから。

3

それより重大なことは、もし生殖器がなかつたら、どういふことを真面目に考えてみることを忘れてゐることです。もち論私たちは生れて来なかつたでしようし、人類はとつと減んでしまつたでしよう。私たちに生殖器があり、それによつて生殖行為を行える様にして下さつたのは神様であります。先づこのことを考えて、どこまでも生殖器を大切にす——生命の次に大切にすることを考え、子供にも教えていきたいものと思ひます。私たちが性教育をもつと積極的に、もつとフランクにするこのの出来ないのは、まだまだ生殖器に対する尊敬さを自覺してゐないことから起るものと思ひます。

尊敬さを自覺するには、どうしても生殖に関する知識を充分に持つ必要があります。私も医者になつて人体の構造を知り、生殖器の構造や生理を深く学ぶにつれて、初めてその神秘に驚いたのであります。ところがこうした知識を正しく私達に与えてくれる者がいない。本が極く少い。それにも増して、生殖器に関することを学ぶことは、何か非常に気のひけることに思ひます。そうした本を読んでいても、人が入つて来るとかくしてしまふのが普通と思ひます。私たち大人でさえ、正しい知識を得るのにどうしたらよいか戸惑ひしてしまふ程で、どうして子供に對しよき教育をすることが出来るでしよう。こゝに簡単に子供の性教育が実践できない源がある

と思ひますがどうでしよう。

4

次の問題は、子供の性的興味をどう考えるかということです。性的な興味は子供の年齢と共に、次第に増して来ますが、それでも幼児期には僅かであり、青年期に飛躍的な発達を遂げる——之は血液の中のホルモンを計算しても同様なカーブが得られます。ところが私たち大人は子供の性的興味を必要以上に過大視してゐます。子供の性的興味は、どこまでも珍らしいもの、新しいものに對する興味は主で、それに少しづつ性的色彩がつき始めてゐるといふ種類のものです。先程例に挙げた様な、親の生殖器をじつとみてゐる、或いはさわつてみたか思ふ心は、大人が考へてゐる様なうすぎたないものではないのです。もしその際に「そんな下品なこと」と叱るならば、子供にうすぎたなさをわざわざ教え込んでゐる様なものでしよう。又、いそいで隠す様なことをすれば、子供は急に鋭い興味にかわるでしよう。かくされたものは、お菓子でもその他のものでも、一層欲しくなつて探すのは当然でしよう。大人だつてそうですね。貰えないとなると余計に欲しいとなるのは人間の心理ですね。

大人は生殖器のことになると、結局、ちらちら見せてはかくされてしまふ、というのが子供の不思議でしよ

う。更に積極性を示せば一言のもとに叱られる。——これでは他の場処で興味を満足させること以外に方法がなくなるでしょう。

出来るだけ性的なものを子供の目の前から除去つて、子供の興味を持たせない様にしたら——これはいつも出る話です。が、どうでしょう、そんなことが出来るでしょうか、自分の子供たちに対して、そんな自信を持つことは出来ません。世の中には性的な興味をひくものは沢山あるのですし、私たち親も、子供の前にかくしおへせない生活の部分が沢山ありますから。

5

それに、性的興味を持たせない、ということ事態がおかしな話ではないでしょうか。性的興味は天与のものであります。之がなければ、やがて男性と女性とが牽引しないでしょうし夫婦生活の営みも難しくなるでしょう。

どうも、子を持つ親は、教えにくいこと、扱にくいことには、子供が無知であることを望み、而もその結果だけはよかれ、と望むものであります。性的なものは知らせない、男女も引合つて欲しくない、そして与えられた結婚生活だけをして欲しいなどと、こんな無謀を敢て考えているものです。こんな誤つた話はありません。よい成果を得るにはよい教育が必要です。性的興味をよく

指導する、——これが大切なことは分つていたけれどしようか。

子供には日々新たに性的な興味を持つてくる、之を私たちは成長の過程として祝福する一方、正しく指導するためにはどうしたらよいかを、いろいろ考えた。しかも、旧来のゆがんだ教育が方々で待ち構えているから、それに対抗するためには、こちらの決意も固くないと失敗を招くことになりましよう。前にお話した星野先生の例は、正しい決意の下に、幼児期の性教育過程を無事に「卒業」させることが出来た、と申してもよいでしょう。

「卒業」させる、という言葉はいゝ言葉でしょう。僕は一人で得意になつていますが、教育に、子供の性的興味という流れに対して無駄なせきを作つて、いつまでもそこにプールを作ることのない様——そうすれば、その興味は淀むことなく大海というゴールに到達するでしょう。この考えはフロイドの考え方ですが、性教育にはぜひ利用していきたいと思ひます。之は理論よりも、むしろ決意といえましよう。

具体的にどうしたらいいか、今度お目にかゝつたときにお話申します。お互に手を取り合つて、子供の幸福を願ひましよう。

くれぐれも御体を御大事に。

どんな幼稚園が

よい幼稚園でしようか

よい幼稚園での所見(上)

小川正通

ここに抄訳して紹介しようとする「どんな幼稚園が良い幼稚園でしようか」(What is a good Kindergarten?) はウィルズ及びステーション Wills and Segeman 共著の「幼稚園における生活」—幼稚園教師のための手引書 Living in the Teachers, 1950 (Illicit.) の第二章「幼稚園のカリキュラム」, The Kindergarten Curriculum 中の第一節である。

昨年二月筆者がシカゴ滞在中に、かつてデューイが創設したシカゴ大学附属学校を見学して、アメリカでも有数な良い学校であると思つた。その際、附属幼稚園主事の Adams 女史 (Olga Adams) にいろいろ話を聞いたが、同女史は自分が序文を書い

ている本書を読むようにすすめてくれた。

本書中、ここに紹介する部分は、少しだらだらと書いているが、精読すれば、アメリカの幼稚園の実情、ことに保育の実際とその着眼点とをよく描写していると思う。

× × ×

幼稚園は楽しい所である。学年なかばの幼稚園の仕事の時間か活動の時間かに入つていくと、訪問者は多くのものでいつしよに作業をしている幸福そうな幼児のグループを見出すことである。あちこちの仕事場からは、やわらかい話声が流れてくるし、先生はグループからグループへと足を運んでいる。シユチュエーションは形式的ではないけれども、注意深い組織があつて

こそ、この忙がしく且つスムーズに運ばれていく仕事(作業)の時間が可能なのである。わたくしどもはグループ内の気安さと教師と幼児間の完全な理解とに感動させられる。

粘土用のテーブルに向つている数人の幼児は、粘土の扱い方において、熟練度を異にしている。即ち赤いドレスを着た女児はなかなか上手に鉢を作り上げた。そばかす顔の男児は、「橋」の建設中である。また最年少の女児は、粘土を押したりなでたり、押ししたりなでたりしている。そのわけはそれがすてきで、マーメレードのように感じられるからである。教師は幼児をほげまし、求められるときには、手助けをするが、決してレッスンを命じるようなことはしない。

油布のエプロンをつけた幼児四人が、二台のイーグルの両側に立つている。そして丸ぼちやの女児は、大きな家を描き、その真中の周囲に左右相称的に、注意しながら花を配置している。黒眼のほつそりした男児は、紙を緑の絵具で半ばうすめた。プラツシを注意深く引き、水平線を描いた。入園早々の男児は、色の上に色を重ねて、大き

なんともいいようのない「よこれ」にじみができるまで、色で遊んでいる。また女兒が巧に沢山小さい形のものを描いたら、他の最年少の女兒が「おさげ」の髪をふり動かしながら、あの子は「Millions of cats」を描いたと、担任の教師に報告する。

幼児がお父さん、お母さんになり、その兩人と子供三人とが、その製作を手伝ったオレンヂ用木わくの遊び小屋の中で、ままたごと遊びに余念がない。そして八百屋さん、一人、リンゴ箱の八百屋の店と遊び小屋との間を前後に歩き廻る。この様子をつぶさに観察すると、八百屋さんが電話（玩具の）で呼ばれた結果らしい。先生は八百屋さんに対して、室内では余り大声を出さないようにと、にこにこしながら助言を与えている。

だぶだぶの父親の古シャツトボタンを後ろにして―を着た子が三人、フィンガーペインティング（指絵）に耽つている。その中の二人は、手と肘で大きい渦巻とカーブを描いており、描きながら愉快そうに笑う。一人は手のこぶしで塗りつぶした模様の図案を注意深く描きあげ、それからそれを乾燥用針金にかけた。

積木遊びを見ると、玩具の飛行機の格納庫製作中であつて、年少児が指図して、他の子が手伝つて作つてゐる。また一つのジェット機を奪ひ合つてゐる二人のいざこざを解決しようと、先生が現場に入り込む。すると訪問者には殆んど聞えないほどの先生の一言、二言で、いざこざは無事解決して、二人は再び幸福そうに遊び始める。

保育室内の小屋で、クラスの多くの子供が明瞭な、大きい、彩色のある絵図の助けを借りて、お話の本を「読んで」いる。また他の幼児達は、子供の唄の気に入りの場面を描いてある木製のバスルで遊び、相似と相違とを学ぶ。

手にクレヨンと紙とをもつた五才児は、水漕のグツビー（小さい鰻帯魚）を観察するテーブルの処に行くのを途中でやめてしまつて、次に科学用テーブルの上に発芽している豆を見、また古い鳥の巢のやわらかい中身にふれようと立ちどまる。

注意のシンクナルのチャイムが鳴つても子供達は聞こうとしない。裏面目な顔付をした赤毛の男児が、ただ一人清掃の時間だと知らせる。すると子供達は、色々な遊び道具をもち運び、ピアノの近くへ一括して

集める。もちろん三、四人の子には、教師が再び仕事の中止を助言しなければならぬ。しかし画を描き続けている子だけに、その完成のため時間の延長が許されるのであるが、その理由はなお四・五才児には、一定時間内の創作が必ずしも容易でないからである。

設 備

子供達を見ることをすましてから、訪問者は保育室を見て廻る。新しい建物ではないけれども、室は非常に魅力的である。壁はバステル・グリーンで仕上げられているが、一方の壁には、幼児の作品だけが裝飾となつてゐるし、他方の壁には、床から天井までの大きい窓が設けられている。幼児用の諸道具が壁とびつたり溶けあつてゐるし、ぶちになつた美しいリノリウムが床に敷かれている。飾り台の上には、良い写真が眼を惹いているし、さらに、巧に挿された花が一段と美を添えているように思う。

保育室からトイレトへは直ぐ近いので特別の「トイレットの時間」は不必要である。また「手洗い」が絵を描いたり、粘土

遊んでいるときに、何か一時的な異常がないかどうか常に注意していなければならぬ。

さらに幼稚園では、幼児の安全のために種々配慮するところがなければならぬのである。

知的要求を充すこと

幼稚園においても、その程度にふさわしい問題解決のテクニックがとり入れられる必要がある。幼児のもつ問題は、たとい大人にとつては小さく見えても、幼児にとつては重大関心事なのである。それで先生は子供が自分で考えなければならぬような質問を出し、子供自身に答を見出させるように導く。例えば通路を狭くしてしまつた幼児に対して、先生は次のように質問する。「わたしたちはどうしてトラックをガレージから運び出すことができるでしょうか」

同一三輪車に乗ろうと争つている幼児には次のように訊ねる。「誰が最初に三輪車を占領したのですか。あなたは長く乗つていたのですか。交代するにはどうしたらいいでしょうか」と。

かような種類の質問を通じて、子供達は

問題をどうすれば根本的に解決できるかについて、学び始める。五才児は行動する前に、考えねばならないということについて多くの経験をもつことが望ましい。従つて教師は子供が自己の行動の可能な結果についても、十分予じめ考えるよう指導するがよい。

例えば、一人の子供が他の子を除いて毛布を独占し、身体を伸ばしているときには、次のように訊ねる。「若しみんなが毛布の上に横わろうとすると、一体どんなことが起るでしょうか」、或は「他のお友達は何処にかけられるでしょうか」と。

ジョンがロイを撲つたとする。ロイはジョンが私をぶつた、ぶつたと叫びながら、教師の所へ走つてくる。すると教師は、その手をロイの肩に同情的に置いて、静かにこういうのである。「人をぶつたりするものではないとジョンにおつしやい」と。それを通して、ロイは遊び場での争の解決には、自分自身に頼るべきことを学び始めるか、大人の所へ助けを求めて走るよりも、むしろ悪いことをした仲間に対して、自分の憤激を表現すべきであることを学び始めるのである。

ものを選択することは、楽しみである。子供も大人も、社会では絶えず選ばなければならない場合が多いであろう。「われわれの台所で一番好ましいカーテンの色は、黄色かピンクかどう思いますか」、「ビスケットを一取り廻すのに誰か手伝つてくれるお友達を選びなさい」、「あなたが最も好きなお話を選びなさい」、というような示唆を通して、子供の識別力は次第に伸びていく。

興味の持続時間を長くすること

四・五才児の興味の持続時間が短いことについては、既に第一章で述べて置いたが部分的には子供の成熟に伴つて、その時間が長くなる。また子供の要求と興味とにふさわしい活動をば、注意深く計画し、指導することによつても、それは発達していくものである。

子供は彼が手がけ始めたことを完成するまでやらねばならない。同一の日に——或は年少の子にとつては、僅な日数内で——完成できるような簡単な仕事を選ぶように指導されるがいい。学年が始るときに、一つの活動から他の活動へと早く移行する時

細工をやる場所の向うに目を引いている。移動式の棚には、必要な適量な教材がならんでいるが幼児達が自分で取り扱えるように低くしてある。

保育室中の小屋の中にある本を見る文庫の所はとくに美わしく、光線も十分である。そのチェアには、花の模様をついたクッションが配置されている。鳥籠や魚をかつている水溜や動物飼育のおり、窓の辺にある花かご、ピアノ、蓄音機、とくに設けられた小屋等は、幼児が幼稚園において豊かな楽しい経験を積むのに役立つている道具なのである。

カリキュラムの内容

良い幼稚園は、すべて園児の年齢層の要求に適合させることに努力している。もちろん一年間のプログラムが立てられているが、それは四才半から六才までの年齢層に対するものである。入園年齢上の資格は、州と地域社会とで違っている。幼稚園のカリキュラム作成に当つては、幼児の肉体的知的及び社会的・情緒的成長の促進が意図されねばならない。

肉体的要求を充すこと

筋肉の調整を改善することは、肉体的発達面の一つの目標である。大筋肉を使用し、その熟練度を高める力強い活動のためには、適切な種々の運動場の設備（運動具）が必要であろう。身体全体を用いる活潑なゲームとリズム活動とは、筋肉の発達にも調整にも有益である。年少児達は、歩き・走り・ギャロップをし、スキップをし、跳び、また音楽に合わせて踊るし、揺れる木やどしんどしんと歩く熊、早い飛行機、或いはつま先で歩くプロニー（妖精）の真似をやる。

小筋肉の調整については、一層徐々にやつていくのであるが、そのための材料を取り扱う機会是非常に多い。指、手及び手首の統制と使用の熟練とは、習字（Hand Writing）——それは小学校において教えられる——の必須条件である。そして比較的小さい筋肉の使用経験と実用的活動とは粘土細工・描画・指絵・リズムバンドの楽器使用、チョークやクレヨン使用、木製のはめ込みパズルの操作等を含んでいるのである。

すべて人は、健康を希望している。園児でも健全な健康的習慣を養い始めるのに、年少すぎるといふことはないであろう。おやつ、トイレットの使用、休息の時間、戸外遊び及び健康検査等は、幼児の健康生活を促進するのに大いに役立つものである。

園児が風邪及び他の伝染病即ち、しつしん、しらみ、ひぜん、とびひのような病気の徴候をもつ場合には、学校看護婦かかかりつけの家庭の医者が保護してくれるまで教師がその子を隔離して置かなければならない。

一体、肉体的要求に独力で対応することができてこそ、初めて幼稚園生活へ十分順応し得ると思う。幼児は他の物事を処理している間に、自己のジッパやボタンの扱方を知り、自分一人でトイレットを使用したり、手を石鹸で洗つたり、その手を十分かわかしたりすることを学んでいく。

教師、両親及び看護婦は、緊密に協調して、幼児の健康と発達とを見守るべきは当然であろう。身長、体重、調整の増進のデータ、今日までの健康カード、及び成長を指示する仕事の見本、を保持している必要がある。また教師は幼児が仕事をしながら

期をもつ傾向が、多くの子供に見られるがそれは大部分の子供にとつて、見本としての活動であろう。従つて種々違った活動の可能性によつて、彼の好奇心を満足させながら、子供は仕事の時間中の一、二の活動に一層集中化していくのである。

創作的表現を發展させる門戸

創作的表現に關しての重大な要件は、表現すべきアイデアをもつていゝことである。広範な直接間接の経験をもつことは子供の背景を豊かにし、また表現すべき内容を留意することになる。地域社会の設立物、例えば八百屋、ガス・ステーション郵便局等の見学によつて、子供の経験は次第に豊富になつていく。自然を歩き廻ること、保育室の中で種々のものを展覽すること、訪問客、バター製造法、室内で汽車を作ること、窓から雪を眺めること。――すべてこれらは、ある種の表現すべきことを子供に對し吹込んでゐるわけである。そして園児は、手技、音楽、創作的園体活動、会話、劇化等を通して、自己を表現する。

手技製作的なもの

良い幼稚園においては、その棚や戸棚に創作的表現の門戸を開くに足る製作用の多くの材料を用意している。そしてこれらの材料は、子供がそれを材料自体として、実験的に使用する時期を経過して、初めて真に手技的なものとなつていくのである。

いい換へると、園児がそれらの材料を自由に駆使できる段階に到達したとき、創作的表現は眞に開始されるのである。従つて絵具、チョーク、クレヨン、指絵具、カットペーパー、カンバス等の諸材料は、幼児の觀察と感情との表現に對する機会を提供してゐるといえる。

元來、種々の媒介物（材料）使用の特殊化された技術は、個人的な表現よりも先走つて、教えられたり、指導されてはいけなしい。例えば大人による干渉なしに、子供が自分自身の話を「語つた」後にだけ、示唆が与えらるべきである。粘土・臘・組んだ紙・漣つた砂・雪等は、立体的表現に寄与することのできる材料である。その中雪は戸外遊びでの創作的に役立つけれども、その価値が非常に大きいとはいへないであ

らう。なぜなら雪でなにかの形を造ることが出来るのは、一時的な自然現象を背景に予想しなければならぬからである。幼児が立体的な材料を使用する最初の試みは、純粹に実験的でなければならぬ。しかもその目的とするところは、その完成よりも表現そのものである。

創作的表現の別の面に役立つものは、鋸・ハンマー・鉋及び關係道具であつて、それによつて、構成作業が成立する。

大きい穴のある積木、及び種々の長さに切られた木製の二吋から三吋の堅い積木は若い建築家をはげますことであろう。それは釘や操作の特殊技術を必要としないで、子供を直ちに創作的活動に入らせてくれるからである。もともと積木による構成活動は、極めて融通無礙のものであつて、構成されたものは、長・短・両時間の遊びに對しての背景として、役立つことができる。また積木を若干加えたり減じたりしただけで、それを直ちに變化させることができる。

音楽

幼稚園の一日の生活の中には、種々違つ

た音程の音楽が用いられる。恐らく子供達
は、「お早よう」の歌を歌うであろうし、
彼等が作業をしたり遊んだりしているとき
に、彼等自身の歌を創作し、また繰返しの
リズムを創作し、或はよく知つている幼稚
園の歌を歌うであろう。また音楽的シグナ
ルが「清掃」の時間を告げ知らせてくれ
る。リズム的経験は、飛ぶ鳥の観察、大工
さんのハンマーの音を聞くこと、リズムバ
ンドの遊び、肉体的リズムの創作的表現等
を通じて得られる。もちろん歌の時間には
多くの歌が配当されている。ピアノと蓄音
機とによつて、良い音楽を鑑賞するための
機会が提供される。

園児は良い肉声の音楽を聞き、楽しみ、
歌が愉しいことを学ぶ。しかし音量を統制
したり、簡単なメロディーを運んだり、軽
快な澄んだゆつたりした声を使用したりす
る能力は、幼児達がいつでも歌い得る歌が
沢山になつて、初めて可能になつてくる。

リズムバンドの楽器は、音色が色々であ
つて、対照的であると同様に、それはリズ
ムに対し種々のパターンの実験をやつてい
る。やがて幼児は自己のリズムを創作し、
オーケストラに合わせる事ができるよう

になる。

身体的リズムの創作表現面は、幼稚園生
活において、優位を占めていと思う。マ
ーチ・走る・ホップ・歩く・滑る・跳ぶ・
スキップ等の基礎的リズムが幼児に教えら
れるが、それは大筋活動を音楽及びリズム
に表現する技術を与える手段としてであ
る。幼稚園ではパターンをもたないフォ
ク、ダンスが教えられるが、その理由は、
大抵の五才児では、不必要な緊張を与えれ
ば別であるが、そうでなければ正確なステ
ップやダンスの型を指導すること自体が、
なお無理であるからである。彼等にはお話
を語る音楽をドラマ化したり、擬態活動を
行うことは、比較的容易である。

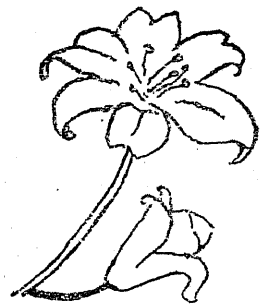
ある。これらの活動に対するアイディア
は、子供がイニシアティブをとつても、
先生がイニシアティブをとつても、一向
差支ないが、その表現と解釈とは、子供か
ら由来するものでなければならぬ。例え
ば、先生が「家の歩き方はどういうように
思いますか」といつていいが、自己の解釈
をもつて反応するのは、もちろん子供自体
である。大好きな話がリズム活動となつて
現れてもいい。また自由と音楽に應じた肉
体使用の熟練とは、創作的表現を促進す
る。若し幼児がスキップを試みるときに、
自分の足にのみ心を奪われることになる
彼はスキップの音楽に対して、十分肉体的
反応をなす自由をもつていないのである。
子供は時々スキップを覚えるのを助けてく
れと要求する時がある。しかしそれも彼自
身の解釈による肉体的反応で、自己を表現
する機会を求めているのである。——たと
へ音楽がスキップ音楽であろうとも。彼が
行進・跳ぶこと・走ること・飛び上ること
・ギャロップすること等の基礎的リズムを
マスターし、熟練すると、その時には、自
己表現の可能性を大いに増進し得るであら
う。

創作的な肉體活動

リズムの拍子或は音楽を肉体的に表現す
ることは、他の創作的活動への門戸なので

谷間におちた保母のうた

鈴木とく



私は、新入児の我まゝに魅せられる。猛然と、めちやくちやに、がむしやらに、或は、無言の拒否で、吾を最愛の母からはなそうとする者に、むかつて来る迫力。

泣きわめかれ、ひつか、れ、髪をむしられ、ひじて、つを喰い果ては逃げられ……。

私は、この様な新入児に、新鮮さを感じる。先生だつてなんだつてかまうもんか、大好きなお母さんからはなしてしまふ、不安なものに対する真剣な、自分をかくさない、限りをつくしての抵抗、赤裸々であり、真剣であり、純一である。これに対して、保母も亦、真剣である。自分のもつ、あらゆるものを披瀝して、なだめ、すかし、たまたまには気合をかけ、はては泪ぐんで、この猛然たる者を自分のものにしようと真実である。

この真剣さと、真実さがふれ合う所に、新鮮さと魅せられるものを感じるのかもしれない。

この幼子達に、保母は年毎に失いかけた新鮮さをとりもどさ

して貰う。私はこの幼子の様に、がむしやらで、赤裸々な、何かにむかつてつき進む、真剣な、保母の若さを求める。そして若い保母に、この事は尊い事であるし、技術の貧困と、経験の浅さと学問のたりなさを悔恨しても、なお真実が、そのまゝ、残つて、懐しまれるものであると言いたい。幾年の、年古る保母となつても、この若さをみとめて励まし、失敗を語つて、次に来る若さへの力ともなり、自分も亦、その気持を失わないよすがともしたい。自己の若さを、ふりかえる事は、様々な悔いのみ多くして……で、なるべくそつとして、かくしておきたい事を土台にして、幼子へのよりよい計画が生れるならば、昔を語るの、古い者の真実かもしれない。

☆

久しく音信の絶えた、私の若い頃の保育所の子供から、保母になりましたと、便りをうけて、楽しいやら、恥しいやら、嬉

しいやら、何かをしてあげなければならぬ様な、色々な気持ちでいながら、まだ、はげましの言葉も送っていない無精者の、不親切な先生である。

同じ頃の子供——一人は大学最終学年、一人は高校を出て勤労に従事している——が、思い出した様に、時々尋ねて来てくれる。何と云う話もせず、学校の話をしたり、新劇の話をしたり、映画をみませんか、とさそつたり。私はこの育つた人たちをみると、その頃の保育者としての自分のガムシヤラ振りが、恥しく、悪かつたな、とひそかに、この人達におわびをしている。そして一方、矢張り、何となく、その若い頃の保育を懐しんでいる。今ならあんな事もしない、そして今の保母さんは、あんな風に子供を扱わないだろうから、今保育される子供たちは、昔の子供たちより幸福だなと思うのである。あんな事、あんな風と云うのは、勉強する機会も、団体も少く、暗中摸索して、子供についての色々な研究も、取扱い方も、経験も少いままに、思いつきやら、人真似やらで過してしまつた事である。たゞ残つてゐるのは、それなりに、子供達へも、仕事へも、真実な、何かを求める気持で一杯だつたと云う事だけである。

私はこの育つた人達に、保育所当時の事をきいてみると、一緒の地域に住んでいないと、その頃のお友達もわからないし、何も記憶にないと云う。たゞ、叱られた事やら、子供劇を見に行つた事やら、キヤムプに行つた事が、ボンヤリと残つてゐると云う事である。そして私の保育のどの年代の子供にきいてみても、キヤムプが面白かつたと云う。それは、肉親をはなれて

最初の長い旅であり、冒険？であつたからだろうか。それとも、自分達で、自分達の生活をした最初の経験だつたからだろうか。叱られた事とか、キヤムプの事とか、何か劃期的な事しか記憶にないとすれば、日々の保母の苦勞は、幼子の中に影もとゞめず、日月と共に流れ去る、果敢ないものである事を思うのだが、子供達へのその苦勞が、自分を育てあげてくれたのではないか、と思うと、今は成人した、そのかみの、様々な子供達やその母親である勤勞婦人に、限らない感謝の念が湧いて来る。あの子供は、あのお母さんは、と思ひ出す度に、過去の保育所のくさぐさの事が浮び、つきない追憶は、私を樂ませてくれる。

保育所——昔は託児所——に仿いた、保母の一人々々の追憶こそ、日本の保育所の内なる苦闘の歴史であり、恥しくても、それが語られてこそ、これからの日本の保育所のあり方を考えてゆく、よき反省の資ともなるのではないかと思う。

☆

今は成人の途上にある、私の保母としてのはじめの頃の子供達が、その長い一日を遊びくらしした保育所は、その頃生活学校とか、勞作教育とか云う言葉があつたが、全く、生活保育所、勞作保育所であつた様に見える。それは教育の深い根拠ある考えから生れたものでなく、設備不十分、人手不足から生じた、困惑の結果であつた。

仕事のあとで、夜おそく迄、三晩も四晩も保育方針について議論した二十三、四代の、経験も研究も浅いどんぐり同志が、

漸くまとめあげたのは、生活訓練に重点をおき、初歩的な社会生活、集団生活の訓練が、それと共になされなければならぬし、子供を通して母親へ保育所の意義を知らせ、母親教育を共にしなければならぬと云う意見であつた。

之は、入所幼児の家庭環境から押しはかつて考えられた事で現在の様な、高度な幼児教育の意見からおし出された事ではなかつた。所謂その頃の幼稚園保育五項目は、幼児の精神や身体のよき発達を促す為に注意深く計劃されたものでなく、長時間の保育を埋めて行く手段としてとり入れられた感じであつた。この保育方針を、どの様に保育で行うかの為に、やつてみたり、逆もどりしたり、思いつきの計劃で、討論したり「盲、蛇におちず」の様なことを、若さだけで押し通してしまつた感が深い。この為に、痛手をうけた幼児が、屹度あつたと思うと、何ともおわびのしようもなく、この後の保育でそのあやまりをしたくないと思うのみである。

三人の保母と一人のお手伝いさんとで、八十八人の幼児の保育給食を分担、母の令、掃除、事務等々もやつた頃、夜更ける迄語り合つたり、新劇を見たり、映画を見たり、徹夜で翻譯小説をよんで、翌日けろりとして子供達と遊び過ぎた事を思うと、年とつた事を悲しむ前に矢張り楽しくなつてしまふのは未来である幼児を相手にしているので、自己の年輪に気づかない愚な幸福であろうか。

ともあれ、自分達のたてた保育方針を一応是として、その方法について考えた丈でも勇敢であつた様に思う。

二十坪のホールと、八畳位の一畳高い畳の部屋、机と椅子を出せば六畳位になる部屋丈での保育は、結局子供達の勤勞をかりなければ、保育室に使つたり、ホールとして使つたりする事が出来ず、一日に二度以上の机や椅子の出し入れは、保母にも幼児にも一仕事だつた。二十五人の三才児に、一人の保母が手順よく、他の組にめいわくをかせずに、生活訓練や集団生活の指導をしようとしても、とても容易な事ではない。そんな事から、保育所は大半が家庭的な生活であるとの理窟をつけて、地域別グループをつくり、年長、年少の、同情と協力の生活をさせた事が、保母の手助けとなつて人手不足を補つてもらえたり、母親の一部から、歌や遊戯を教えたりしてくれない、——と不平をもらす人がある事から、年齢混合のグループ生活を、間違つた事をしてる様に感じられて、その中で年齢別にする保育もとり入れたりが、何とも云えない和やかな、家庭の様なものを感じるこのグループ保育に、今もお愛着を感じるのである。街頭に出れば、社会に出れば、常に、同年齢の安定感の中にもみ生活は出来ないし、不安定や、困難を克服した喜びの上にも、なおそれ以上の、力や創造への憧れが湧き上るのではないか、そう云う強さも養われる必要があるのではないかと云う考え方が、批判もつけずに私の中にあるから、生活指導の上での年齢混合保育をすて難いものに感じるのかもしれない。

こんな頃の、幼児との生活の日記や感想から、若い方達が昔の事を読む様な興味を覚えてくだされば、難しい保育理論のあい

まのなぐさみに、軽い討論の種ともなるかもしれない。

☆

一九三五年七月

地域別グループをする事で、二時間も話し合った。結局、お互いに色々な意見はあつたが、地域を受持った保母が、幼児と共にその母をも受持つて、幼児の保育の効果を上げると共に、母親の生活改善と、生活向上をも計つて行かなければならないと保育所と母の会の連関について意見が合い、生活と団体の訓練を、主な目標とした保育を試みようとする事に大体の意見の一致をみた。云い出しはしたもの、なんだか今後のやり方について不安も感じる。

☆

一九三五年七月

毎日、お帰りの時、同じ地区のお友達、同じ道を通つて帰る子と一緒にして帰らせたり、お昼、おやつ等の時一緒に集つたり、散歩の時に同じ地区の子供同志並んで出かけたりのりで、どうやら自分達の塊を感じて来たらしい。おやつのおとで、この塊に名前をつけようと、子供たちに相談をしたら、みんな動物の名前ばかりとび出す。何とも仕方がないので、自分の組はゾオ組と云うことに落着いた。あとで、他のグループにきいてみたら、矢張り同じで、ライオン組、キリン組だと云う。まるで動物園の様だ。しかし、之が、子供たちの発案と相談で決つたものなら、それをとりあげるよりしかたない。

保母の負担軽減のためにのみ、このグループ保育がなされて

はいけない。これ迄にみられなかつた、弱い者、小さな者へのいたわりの気持を、より優しいもの美しいものに高めたい。

家庭訪問、今迄の様に地域があちこちにとばず、一軒に行けば、ついでに近所の家も歩いて、自分の組の子供の家庭の様子や子供の様子を見たりきいたりして来ることが出来てとても便利だ。

一九三六年六月

おやつの中の「探偵エミール」の話を、丁度切りのい、所でよして、いつもの様に「さあ、お机を片づけてお帰りにしましようにね」と云うのを、待ちかまえていた様に、保母が云い出した。

「いつもく僕だけして、つまらないや、センス、僕、いやだよ、いやだよ」

「保君は一番大きいんだから、さあ、皆でしようつて、云つてやるのよ。自分だけ、ひとりでしなくてもいいのよ」

「ふうん」と、氣のない返事をして、お皿を持つたま、突立つて居た。すると、青山とし子ちゃんが「ネエ、センス、お机片づける順番きめようよ」と、云い出した。

あ、木当だつた。なぜ気がつかなつたのだろう。子供達がこんな云い出す様になる迄ほつとしたのか。子供達自身から要求が出たのだ。保君も、とし子ちゃんも、お片づけの時になると、一番よく働く。グループの中で、年長なので、それに、何時も、いやな顔もせず、小さな子の分迄運んでやつたりしてやつているので、そのまゝ、にしておいたのだ。何時もく自分

達ばかり冗く、皆は遊んでいる。ほんとに、グルーブの皆で協力して片づけ方をする様に導くべきだった。

「ほんとね。ではごうしましよう。今日は男の子がお片づけして頂戴ね」

「うん、いゝよ。この次は女の子だね」

それで今日は一蹴落着いたけれど、グルーブを二つの交代当番にして片づけ方をさした方がいゝか、それとも全体で、自分の紐の物を片づけるか、考えなければならぬ。

なるべく皆でやつた方がいゝのだ。相談会を、あした又、おやつの際にしよう。子供たちは、小さいなりの意見を云うだろう。今日、子供から、当番にしようと言いだされた事は、とても嬉しい事だった。そして又、保君が、自分の云いたい事を、はつきり云ってくれた事もいゝ事だった。

いやな事はいや、とはつきり云い、わかつたら快よく動く人になつてほしい。

保母が一つの、おどかしの存在となりたくない。自由に物を云わせ、そうした空気をくり出す事を、もつとよく考えなければならぬ。

一九三六年五月

☆

先日からの机の片づけ方の問題を、今日は皆で決めよう、とお八つを頂きながら、順々に、どうしたらいい、かをきいていった。

「やらない子は、つれて来て一緒にやるの」

「お当番がやつたらいゝの」

「みんなでやるの」

お隣りに坐っている友達の真似をして云う子もあつたけれど、次々に云つてくれて嬉しかつたが、全部が云い終らない中に、用事が出来て、子供達からはなれなければならなかつたので、みんなの言い分もきかず、いろいろと話合ひもせず、中途で悪いなと思つたけれど、「男の子がお机を運ぶ時は、女の子がお椅子、次の日は反対に、そして順々にして行きましようね。そして、どの子も、どの子もみんな、お片づけをしましようね」と、決めてしまつた。

用事がすんで帰つて来た、大きい子供達が側へ来て、「センセ、今日は一等だよ。みんなでやつたよ」と。早速報告してくれた。

「そお、よかつたわね」と云つたけれど、何か子供におしつけてしまつた様な感じでないやだつた。も一日延ばして、明日又、お八つの時に、残つた子供達の言葉もきいて、ゆつくり、みんなと相談すべきだった。決められ、おしつけられた言葉は、その時で、ほんとに、子供達自身が、喜んで仕事をし、冗く原動力とはならない。大きい方の子供達が納得して、お片づけをみんな楽しんでやる様になれば、小さな子はいつて行く。小さい子供達は、やりたくてしかたなくても、大きな、重い机を動かす力の力がないのだ。このきめも、その中にくづれて行く事だろう。そしたら又、今度こそ、グルーブの皆で語り合つて、子供達のやつて行きたい方法で、楽しくお片づけをする様に相

談しよう。

☆

一九三六年六月

今朝も、十人ばかり連れて、市場に買出しに出かけた。朝早くから登所している子供達をつれて、朝の街を、給食の買出しに行くのは楽しい。市場の八百屋に、新しい野菜が沢山積みかさねられてあるのを、子供達はみている。前の方に並べられた小さな物を、これなあに、あれなあに、と次々質問が続く。自分の知っている野菜の名を、大きな声で言い合っている。八百屋の小母さんが「みんな早いね。センセ、大変ですね」とお愛想を云つてくれる。郁夫ちやんが、そら豆を見つけて、大きな声で「これ、大きな豌豆まめだねえ」だつて。

注文を済まして、持つて行けるものは、めいめい代る番に持つて帰る。

お手伝いの小母さんが来る迄、ホールで遊んでいる子供達をみながら、豌豆の莢取りでもしておこうと思つて持つて来たら大きい女の子や、チビさん達までがよつて来て「やつてあげようね」と云うので、莢のとり方を教えてあげると、皆でむしつている。

「センセ、今日、ライスカレーだろ」

「よく知つてるのね」

「あたい、母ちやんに、コンダテ教わつたんだよ」

登志子ちやんが、大きい目をなおしく、大きくしながら話しかけて来る。すると側でみていたチビ重ちやんと、キム重ちやん

が、

「イイナ、イイナ、ライス カレー」

と、みんなに云いふらしてあるいていたが、又、私の所に戻つて来て、

「センセ、おいも入るんだね」

「そおよ、重ちやん、洗つてくれる？」と云つたら「ウン」と云つて、台所に駆け出して行つて、ポテトの入つたザルを持ち出して来た。そしてら郁夫ちやんも、キム重ちやんも、五、六人よつて来て、お互に、袖をまくりあげてやつて、洗面所で、ポテトを洗いはじめた。S先生が、玉葱もしときましようね、と云つて持つて来たたら、其処へもお手伝いが集つた。時々こうして、今日作る、お屋のおかずを、子供達と一緒に準備するのは楽しいことだ。広い台所があつたら、代る番に大きい方の子供をお台所に入れて、出来る丈のことを、お手伝いさせたら、どんなに喜ぶことだろう。白いエプロンをかけて、可愛い二の腕を出して、大人と一緒に、自分達の食事を、自分達も手をかけて揃えあげたら、どんなに楽しい事か。お屋の時のお当番を、あんなに喜んでするのだから、本当に揃えるお当番だつたら、もつとく待ち遠しが事だろう。

☆

その時、その時に書き留めた、子供の姿や、保母の感傷やら保育のし方の反省等が、沢山集つたら、同じ仕事をする人の楽しい読み物になるのではないかと思う。つまらない事でも、子供と共に過した人には、その事への共感を呼ぶのではないか。

今なお、設備と、人手の不足に、自分の熱と労力とを子供達にさ、げて、日夜苦心していられる保母さんの事を思うと、或年代に、或人がした保育に、ヒントを得たり、自分を慰めて貰つたり出来るのではないかと思う。

不況時代、戦争時代、敗戦時代と、各々の社会状態は違つても、勤労者地区の、幼く母親の問題、幼児の幸福の問題、一銭と十円の単位は違つても、せがまれるまゝに、無駄使いさせるお小遣いと、母親の育児、家庭教育の向上の問題は、形を変え程度の違いはあつても、何時もつきまといつている。

貧しいものは、保育所から、なんでも貰いさえすればよいと云う母親の考え方が、幼児にも、常に与えてもらうことのみ待つて、自分の努力や我慢で、喜びを克ち得る事を学ばせない。私は、この事を、幼児は幼児なりに、何とかしなければと、その時代、時代に思つた。

最初は、例会のある度に、家々をまわつて出席を求めた母の会が、三年目には、地域の懇談会で、自分達から、勉強会の事を、講習会の事を云い出す様になつた事の嬉しさ、けれど、自分の子供の幸のみ願つて、地域の子供達の悪化には無関心であり、自分本位にものを考えて、自分の都合さえよければ満足な社会生活へ目がむかない母親達は、十五、六年前より、よいと云つても、現在もまだく考え方が開けていない。

こんなことにとりくんでいる保母さん達のために、理論家はつまらないと目もくれないまでも、何処かでなされた、さ、やかな幼児との生活のメモが、沢山集つたら、と思う。そしたらら

の、若い人々の胸をうつ「遙なる山河」とは行かないまでも、「大いなる果敢なき夢」とでも纏めるのではないかしら等、とりとめもなく想うのである。

(21頁より)

創作的な言語経験

話し言葉を通じて、自由に自己を表現することは、どんな年齢層の社会グループの生活にとつても、必要なことである。また他人の表現を理解し且つ判断する能力も、同じく必要であらう。園児は一般に読書の抽象的シンボルをマスターできるほど、なお十分に成熟していないし、文字表現のため要求される微細な筋肉調整にも到達していない。しかしこれら二者の熟練に対する基礎は、もともと口頭表現の巧みさにあるのである。自己の経験をグループに怖れず話すこと、他人のアイデアを聞くことを学ぶこと、発表・発音を改め、語いを豊富にすることは、幼児が自己を十分表現し得るための道であらう。また圧迫から子供を解き放すと話をするのが容易になる。幼児がその仲間と思想や活動を言葉の上で共同にする経験が、多大であれば多大であるほど、話をする可能性が大になり、また好むようになれるものである。彼は彼自身の話をドラマ化したり、本の絵を通して創作できるようになり、或は親しいお話を話すことができるようになる。さらに幼児は、話合いや「分配の時間」に参加したり、仲間の職業に事件を報告することにも参加していく。

(未完)

日本幼稚園協会主催 保育講習會

器 樂 と 遊 戯

お茶の水女子大学助教授 戸 倉 ハ ル 氏

期 日 七月二十一日から同二十五日まで五日間・午後一時—四時
 会 場 お茶の水女子大学体育館

注 意 七月二十一日—二十五日 午後の「器樂と遊戯」(戸倉ハル講師)の講習日の午前中は、附属幼稚園遊戯室で、児童心理(一単位)牛島義友氏の認定講習がございます。

お茶の水女子大学主催 幼稚園教育免許法認定講習會

期 日 六月下旬から八月上旬まで
 会 場 お茶の水女子大学附属幼稚園遊戯室
 科 目・単 位・講 師

一 般 教 育	人 文	倫 理	一 単 位	お茶の水女子大学助教授 勝 部 真 長 氏
専 門	体 育 原 理	一 単 位	お茶の水女子大学助教授 戸 倉 ハ ル 氏	
教 職 科 目	児 童 心 理	一 単 位	お茶の水女子大学 教 授 牛 島 義 友 氏	
	教 育 原 理 (保 育 課 程)	一 単 位	お茶の水女子大学 講 師 松 村 康 平 氏	

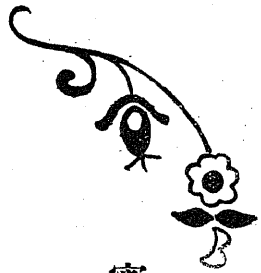
なお詳細は左記へ郵券を添えてお問合せ下さい

昭和二十七年五月

お茶の水女子大学附属幼稚園内

講 習 會 係 り

(東京都文教区大塚町三五)



蜜蜂の世界から

岡田 一次

1
校庭に並んだ幾つかの巣箱から、今日も早朝から蜂が勢良く飛び出した。野山に美しく咲いた草花を訪ねて、セツセと蜜を集めて巣房へ帰つて来るのである。

花が昆虫を誘う真理は複雑であつて、今尚、学会で未解決の問題が残つているが、花の内部にある蜜線から出る甘い花蜜がその主因となつてゐることは確かである。花蜜を化学分析してみると、その主成分はお砂糖と同じく蔗糖である。花に集まる大多数の昆虫類は色とりどりに飾られた花テーブルの上で、腹いっぱい花蜜を御馳走になり、貯えることなく、その日々の生活をしてゐるのである。

蜜蜂は花から蜜を吸い取る時には、長い舌を伸すので、花の奥からも上手に吸い上げることが出来る。吸いとられた花蜜は一たん蜜嚢と呼ばれる胃袋の中に約〇・〇三グラムほど収められ、そのまま巣房へ持ち帰るのである。蜜蜂が巣箱の入口に到着すると、其処

には何時も何匹かの番兵の幼蜂が見張つてゐる。巣門で触角を動かしながら何かの合図をすると、同じ巣房の仲間であることが分るらしく、無事に閘所をパスして、暗い巣房へ急ぐのである。巣房の上には何万匹という内勤の若い幼蜂がうよよとしてゐるが、凱歌をあげて巣房へ帰つた幼蜂は、勢よく両羽を振り、見事なダンスを初める。巣の中で内勤をしてゐる若蜂は急いでこのダンスの周りに集まり、先着の一匹がこのダンスから口渡しに花蜜を受け取るのである。その後、ダンスは何匹かの内勤蜂に花蜜を口渡しをし、今度は自分で花粉を巣房に落してから、再び野外へ飛び出して行くのである。

蜜蜂の家族は他に例を見ない程賑さである。一家族の中には、体の大きい一匹の女王蜂と、何百匹かの雄蜂と、何万匹かの幼蜂が秩序ある社会生活を営んでいる。巣房は六角形の小部屋から成り、或るものは育児室、或るものは貯蜜室として使われる。女王蜂が育てられる部屋は王台と呼ばれる特別室で、大きさも幼蜂の房よりも遙か

に大きく、又、その中に与えられるお乳(王乳)の量も、ずつと多いのである。女王蜂の役目は、一年中、只産卵するのが仕事である。年に約十萬個の卵を産み、一番産み盛りの時期には、一日当り二、三千個も産み続ける。雄蜂は蕃殖以外には何の役目もなく、蜜の稼ぎにも行かず、巢房で只々居候をしている。これに對し、幼蜂(性は雌)は、育兒から蜜の採集、仕上げから、巣造りから巣場の掃除まで、巢内の一切の仕事を受けける。幼蜂の寿命は、普通は僅か一、二ヶ月に過ぎないが、この間、初期の時代は内勤蜂として、又、後半期は専ら外勤蜂として、文字通り朝から晩まで働き通し、働き一生を終るのである。

2

スペインで發掘された新石器時代の古墳の中から、古代人が蜜蜂の巢から蜜をとつている壁画が発見された。聖書の中には「乳と蜜の湧くパレスタインの聖地には、牛羊をひく牧人と、ブドウを植え蜂を養う農人とがあつた」等という句が所々に見出される。西曆約三百年前頃には、アリストートルは蜜蜂に就いて可成り詳しい研究をしており、人間と蜜蜂との關係は相当に古いものと言えよう。

日本では昔から「地蜂又は日本蜂」という在来の蜜蜂がいる。この蜂は現在でも四国や九州の山地で可成り多数飼われている。学者の研究結果によると、この蜂はインドやシナ等に住む東洋種と同種である。日本蜂の性質は非常に溫和であるが、採蜜力が弱い他、色々の欠点があつて、実用価値からいうと、西洋種には遙かに及ばない。この様な理由から、最近では日本でも洋種の飼育が盛んなのである。しかし、折角生産された蜜に對しては国民一般の認識が薄く、

この点には今後多くの問題が残つてゐる。

最近、アメリカでは蜜の微量分析が非常に進歩し、又、人体に對する蜜の栄養試験結果も屢々発表されてゐる。数多い研究論文の中で、ミネソタ大学のハイダーク博士の「食品としての蜂蜜」と題する一文は最も異色がある。

ハイダーク博士はアメリカ産の蜂蜜を材料として精密な分析を行つた結果は、あらまし次の通りである。

蜂蜜の分析結果の一例

果糖	四〇・五%	(四〇・二―四八・六%)
ブドウ糖	三四・〇%	(二四・七―三六・九%)
蔗糖	一・九%	(〇・〇―一〇・一%)
灰分	〇・二%	(〇・〇―三・〇・九%)
ビタミン各種	微量	
水分	一七・七%	(一二・七―二七%)

尚、灰分の中には、人体の栄養に必要なカリウム、ナトリウム、カルシウム、マグネシウム、銅、鉄等が微量ではあるが含まれる。又、ビタミン類に就ても、B₁、B₂、B₆、パントテン酸ニコテン酸等が認められている。

ハイダーク博士のこの論文の中には、蜜の人体に對する栄養効果に關する多くの実例が示されている。

蜜の造血効果に關する一例には次の様な記事がある。「エムリツヒ氏は、ヨーロッパ人の同一家族又は生活環境の似た者の中から、体型、年齢、休質及びヘモグロビン含量の近い六群の小児を選び、各群の中の二人は牛乳と蜂蜜をとり、他の者は普通の食事の他に牛

乳のみをとる様にした。その結果、蜜をとつた者の方が圧倒的にヘ
モグロビンの増加を示した」。

蜜に含まれるビタミン類の効果が就ては、ハイダーグ博士はこう
言っている。「蜂蜜の中にビタミン類が微量ではあるが存在するこ
とは、重要な事柄である。元来、精製された砂糖（蔗糖）を喰べる
と、人体がそれを利用するために必要なビタミンを他に求めなければ
ならず、従つて砂糖はこの点からも有害である。蜜の場合は、そ
れを自分で持つているのである」。

赤ん坊のため牛乳に蜂蜜を加えると好結果が得られたという実例
は、外国では枚挙にいとまが無い程である。ハイダーグ博士はこの
論文の中で多くの実例を述べているが、シカゴ大学小児科部のシュ
ルチエ博士の研究結果は興味深いものの一つである。即ち、シュ
ルチエ博士は結論として「蜂蜜は、どこにでもあつて入手しやすく、
美味で、消化され易いから、乳児用の含水炭素源として、最も広く
利用されて然るべきものである」。

以上は、アメリカの有名なハイダーグ博士の蜂蜜の栄養に関する
論文の抜録であるが、日本でも、この問題に就ては詫摩、重戸博士
の報告が公にされている（乳児栄養と蜂蜜：養蜂技術協会発行の「月
刊ミツバチ双書第二集」、十二頁、定価二〇〇円）。この他、蜂蜜は各
種の病気に効果があるそうで、特に皮膚のアレ止め、胃腸病、赤痢、
糖尿病には良く、疲労回復には最適である。

蜜の食べ方としては、生のままパンに付ける他、ホットケーキ、
ミツマメ、アイスクリーム、氷水等に用いられ、又、カステラ、生
菓子、パン等に入れると良い。蜜の上手な食べ方や子供用のオヤツ
への利用法等に就ては、全く未解決の分野で、皆様の今後の研究、

工夫に期待したい。（関口せつ著：おもしろい蜂蜜お菓子「月刊ミツバ
チ双書第四集」三〇円）

3

人を刺す昆虫の種類は多いが、痛さから言つても蜂は先ず第一人
者を譲るまい。中でもスズメバチの仲間には特に痛い。刺した跡に
は針は残らない。

蜜蜂はアシナガバチ等とは違つて攻撃性は少なく、痛みも弱い
刺されたに跡毒針が残るのが特長である。人を刺した蜜蜂はその後
間も無く必ず死ぬのであるから、全く自分の身を犠牲にしての攻撃
なのである。

蜜蜂に刺された時のハレやカユサは、各人の体質によつて非常に
差がある。又、何回か続けて刺されると、免疫になつてハレなくな
る人もあるが、殆んど免疫にならない人もある。しかし、何れにし
ても手当法としては、アンモニア液を何回か付けるのが一番簡単で
ある。手当は早ければ早い程良い。蜂に弱い人は何回も繰返えしア
ンモニアを付ける必要がある。キンカン等の売品も良く効くよう
で何か薬品を一種類、各家庭の常備薬として備えておきたいものであ
る。

「刺さない蜜蜂」という事は冗談でなく、一部の学者によつて真
剣に考えられた事柄である。ところが、最近、蜜蜂療法が知られ、
蜜蜂の注射が多数の神経痛患者の治療に盛んに用いられる様になつ
て来た。これは決して迷信的なものでなく、外国でも日本にも多く
の実例がある。恐ろしい伝染病をなおすため「毒を呑んで毒を制す」
ワクチン療法は現代では誰も安心して利用している。蜜蜂の医学的

研究によつて、益虫の蜜蜂を更に医用の益虫としたのは、蜜蜂果の大きな願いの一つである。

4

昆虫が農作物や草花等の花粉媒介に大切な役割を果していることは広く知られている。

蜜蜂が花にやつて来た時に、その行動を良く見詰めて観察してみると、口では花蜜を吸いながら、一方、足では花の雄シベをかきまぜていることが分る。この様な行動が続く内、花の花粉媒介は果され、蜜蜂の最後の両足先には、丸い大きな花粉の塊が出来るのである。この花粉は、後刻、蜂尻の重要な食料となるのである。

蜜蜂の花粉媒介の有難さが一番身近かに感ぜられるのは、庭先きのキユウリ、西瓜、南瓜の結実である。不幸にして蜜蜂やマルハナバチが訪ねて呉れないと、折角の雌花がみずく枯れる残念さは、終戦直後には誰れも経験したことであろう。アメリカの或る地方では、自分の牧場に他人の蜜蜂を招くため、一畝当り五ドルから十五ドル(約二〇〇〇—六〇〇〇円)のお金を飼い主に支払つている所である。

ところが最近、世界の農業界に一つの大きな問題が起つたのである。それは科学農業の発達のため、農業薬剤が大々的に散布され、その当然の結果として、一部の益虫の数が目立って減少して来たのである。文化の発達に伴う自然界の逆行に就ては、アメリカでもソ連でも大いに注目している模様である。現に一九五一年にアメリカ農務局の發表した農事指導書には「アメリカに於て蜜蜂が飼われる第一目的は、蜜やロウをとるためではなく、農作物の増収を計るため

の花粉媒介にある」と断定しているのである。
蜜蜂の農業増産にかけられた期待は、将来益々増大していると言わねばならない。

5

日本は自然に恵まれた美しい国であるが、蜜蜂にとつても非常に適した土地である。春の梅、桜、桃、梨、ナタネ、シンゲ等は、まるでバナラマの様に、大自然を飾り、人の心を慰めているが、一方蜜蜂にとつては重要な蜜源で、春は一年中で一番大切な蜜の収穫期である。その後の蜜源植物としては、柿、栗、瓜類、トチ、シナ等があり、又、秋にはソバ、ビワ、ハギ、コスモス等、数え切れない程の草花が密かに蜜蜂の御馳走をしているのである。

日本には現在全体で約二〇万群の蜜蜂が飼われている。各家庭でも蜜蜂を上手に飼うと、一年間に一斗罐一つ位の蜜がとれるので、日本全体では大体二〇万罐の蜜の生産があることになる。この生産量を人口割に計算してみると、日本人の一人当りの消費量は約七匁である。最近アメリカで発行の或る養蜂雑誌によると、アメリカの蜜の値段は砂糖に比べて約三—四倍も高値であるが(日本は一倍半ぐらい)、それでもアメリカ一人当りの一年間の消費量は約二七〇匁である。この様に極端な消費量の差が何故起るかという事は、国の経済力、食生活、国民性等を総合的に研究した上でないと論ずることは出来まいが、その主要な一原因に、蜂蜜の栄養に對する理解が挙げられることは確かであろう。将来とも、お砂糖の生産には望みの少ない日本である。子供の發育に害を伴うお砂糖や化学甘味剤に就ては、今、一考の必要がある。(筆者玉川大学教授農學博士)



ア
メ
リ
カ
童
話
か
ら

17

松 原 至 大

バスケットの子猫

うす墨色の子猫君が、初めての道を、元氣にかけていました。やわらかな毛でおおわれた尾が、小さな旗のように高く立っていました。その道は、とても広くて、ほこりつぽい道でした。両側は、高い木と深いやぶとで、境ができていました。この子猫君は、そこをお屋過ぎから、ずつと歩き続けているのでした。ここへ来るまでにどんなことがあつたのか、よく覚えていませんでした。なぜかといえば、生れて間もない子猫でしたから。

この子猫君は、生れてからの短い日々を、お母さんと、四匹のお兄さんたち、一匹のお姉さんといつしよに、町で送りました。

夜は、みんなであたたかなバスケットの中に寝ました。いつもやさしい声をしただれかに呼ばれて、おいしいミルクをいただきました。

春のある日のこと、そのやさしい声をした人が、

「まあ、まあ、この子猫たちのよく育つて行くこと。早くみんなに、よいお家を見つけてやらなければ。」
といました。

ちようどその日から、二日ほどしてそのお家のだれかが、そばのドアをあけつばなしにしておきました。その朝このうす墨色の子猫君は、とても元気で冒険をしたい気持ちになっていました。そこで、ドアをそつとぬけ出して外の空気を、いつばい吸いこみました。新鮮で、おいしい香がしました。なにもかも元気に育つ、生き生きとした香でした。風に吹かれてころがる、一枚の木の葉を追いかけました。もう一枚の葉が、そこへ飛んできました。子猫君は、それも追いかけてました。それは、子猫君を、裏庭から外の方へ連れて行きました。面白いので、そこがどこだか少しも気づきません。そのうちに、木の葉を追いかけることにあきてしまいました。子猫君は腰をおろしてあたりを見まわしました。なにもかもが、初めて見るものばかりでした。

「ニャーオ、ニャーオ。」と、子猫君はしずかになきました。「ぼく、ぼくのバスケットに帰りたいよう。きっとお皿まにミルクが残っているよう。」

そこで子猫君は、帰ろうとしました。けれど、まだ小さくて、それほど利口ではなかつたから、道をまちがえてしまいました。歩いてても、歩いてても、バスケットのそこには来ません。そして、今こうして歩いているのです。

もう太陽も低くなりました。さびしくはなるし、おなかもすいてきました。子猫君は、また腰をおろして、ぼりのついた手と足をふいて、さてこれからどうしたらよいのか、考えました。

栗鼠りすが一匹、木からおりてきて、子猫君をじつとながめました。そして、

「へロー、そこで、なにをしているの？もう、寝る時間ですよ。」
といました。

「ぼく、お家をさがしているの。ぼくのお家は、バスケットで、いつも今ごろ、ミルクがいただけるんだよ。」
と子猫君が答えました。

この栗鼠は遠慮のない栗鼠で、いつもだつたら、笑い出すのでした。けれども子猫君があんまり無恥気で一生懸命だつたので、やさしく、こう言いました。

「ああ、そう。私は君に、バスケットをあげることはできないが、今晚のお宿はさせてあげますよ。私はあのかしの木の上に住んでいて、葉と小枝でできたきれいな巣を持っていますよ。なにか木の実をご馳走しましょう。

しかし子猫君は、その高い木を見上げると、ぶるぶるとふるえました。

「ああ、ありがどう。でもぼく、あんな高い木にはのぼれない。それに、ぼく、木の実はたべないんだよ。どうもありがどう。ぼく、帰ります。お家を見つけますよ。」

「じゃ、早く見つけなさいよ。」

こういつて、栗鼠は高い木のでつぱんの巢の中にはいりました。そして間もなく、眠つてしまいました。

子猫君は、また元氣にかけて行きました。間もなく、妙なものに出会いました。身体は黒光りがして、背中に白くしまがありました。それは、スカンクでした。スカンクは立ちどまつて、子猫君を見ていいました。

「今晚は、めずらしい方。どこへいらつしやるの？」

「あ、ぼく、疲れちやつた。お家を探しているの。」

と、子猫君は、めんどうくさそうに言いました。

「まあ、おかわいそうに、私といつしよに、いらつしやいな。あなた、きつと私の親類ですよ。私、ここから遠くない木の根の下に、よいお家を持っていますよ。」子猫君は、どうしたらよいのか、わかりません。

「ぼく、バスケットの中にいたから、木の下では眠れませんよ、きつと。おばさん、とても親切ですね。けど、ぼく、じきにお家を探せますよ。」

「あら、そうですか。では、無事でおさがしになれるように。あなたは、ほんとうにいいねいな方ね。」
と言つて、スカンクのおばさんは行つてしまいました。

子猫君は歩き続けました。太陽は沈んで、あたりがぼんやりとしてきました。そのうちに、子猫君は、やさしい目の動物に会いました。二匹の赤ちやんを連れて、道をびよんぴよんとはねて行くのでした。それは兎でした。

「ニャーオ、ニャーオ。」と、子猫君が疲れた、小さな声でいいました。すると兎は、

「おや、どうかなさつて？、」と、親切にたずねました。

「お家が見つからないの。」

「まあおかわいそうに、いつしよに、私のお家にいらつしやい。あなたが。私の赤ちやんをうるさならなければ、私、むこうの原つばに穴を作つてあるのよ、木の葉でまわりをかためて、とても住みよいお家よ。」

けれど、子猫君は気がむかないのでした。

「ぼく、穴の中に寝ることはできないよ。おばさんとても親切にたずねて下さつたけど。ぼく、お家のバスケットをさがしますよ。」

「まあ、あなたのさがしていらつしやるのがバスケットなら、私、どうしようもありませんね。では無事に、おさがしなさいね。」兎はやさしく言いました。

子猫は、また歩き出しました。あたりは、静かでした。春の夜の原つばは、あたたかで、よい香がしました。

子猫君は、急に立ちどまつて、耳を立てました。遠くの方から、人の声がきこえてきました。子猫君はうれしくなりました。どこかに人がいるのです。人がいれば、お家もバスケットも、それからミルクもあるのでしょうか。子猫君はかけ出しました。きつと近くにお家があるのだと思つて。

とうとう小さな道に出ました。それを行くと、間もなく、小さな、小さなお家にきました。それはうす暗くて、音一つないところにあるのですが、それでもなんだか、うれしそうに思えました。玄関のドアの近くに、いすが一つありました。子猫君は、その上にとびのつて中をのぞきました。ドアの取手になにかかけてあります。暗いのですが、子猫君には見えました。それはバスケットでした。——まるいバスケットでありました。

「やあ、お家だ。」と、子猫君はうれしさをで咽喉のどをならしました。そして見事にとんで、バスケットの中にはいりました。バスケットはその時、ゆらゆらしましたが、ドアの取手に結んであつたので、落ちはしません。子猫君は、ヴァイオレットやカウスリップや、よい香のヘパティカ（すはまそう）などでとりまかれた、やわらかな青い苔のベットの中にいたのでした。よい気持ちになつて、いつの間にか眠つてしまいました。

あくる朝、早くドアが開きました。子猫君は伸びをして起き上りました。

「ニヤーオ、ニヤトオ。」といつて、カウスリップやヴァイオレットやヘパティカの間から、外をのぞきました。その時、

「あら、あら。どうしたのだろう。」と、とてもやさしい声がしました。ひとりのおばあさんが、子猫君を見えています。「ニヤーオ、ニヤーオ。」また子猫君はなきました。

「まあ、だれかが、私のために、五月祭のバスケットを、おいていつて下さつたのだよ。」と、おばあさんは言いました。「お花に。苔に、子猫を一匹。ちよと私のお友だちになるように。」

おばあさんは、大喜びでした。だれが、そのバスケットを、ドアの取手にかけておいたのか、それは後でわかりました。けれどどうして子猫が、そこにはいつたのかは、だれにもわかりません。うす墨色の子猫君のほかには。

(エリー・フエアナチャイルド・ピーズ女史の作による)

第一回全國保育事業大會

主催 厚生省 中央社会福祉協議会 島根県 島根県社会

福祉協議会 松江市 松江市社会福祉協議会

後援 広島県 広島県社会福祉協議会 岡山県 岡山県社

会福祉協議会 山口県 山口県社会福祉協議会

鳥取県 鳥取県社会福祉協議会

協賛 報道機関 放送局

会期 昭和二十七年七月十五日（火曜日）十六日（水曜日）

十七日（木曜日）三日間

開催地 松江市

大会日程

第一日 七月十五日（火）	開式	時分 時分	
総会	演説	九・〇〇—一〇・三〇	
第一部会（保母）	第一部会（施設、経営）	一〇・三〇—一一・〇〇	保育の内容、保母処遇並に資格等について、保育行政一般について
第二部会（関係者）	第二部会（官公吏、職員その他）	一一・〇〇—一二・三〇	
第三部会	第三部会	一二・三〇—一四・〇〇	
歓迎芸能会		一六・〇〇—一六・〇〇	

第二日 七月十六日（水）

第一部会（施設、経営）

第二部会（関係者）

第三部会（官公吏、職員その他）

研究発表

保育の部（保母）

施設経営の部（関係者）

慰安の夕

第三日 七月十七日（木）

特別研究発表

総会

地元招待郷土名勝案内

散会

（地元招待郷土名勝案内）

(1) A コース（大社詣で）

(2) B コース（美保閑詣り）

（大會参加費）一人に付 二〇〇円

（大會事務局） 島根県庁民生部社会福祉課

第一回全國保育事業大會準備委員会事務局（振替口座松江

公一番）

九・〇〇—一二・〇〇	前日と同じ
一二・三〇—一四・〇〇	前日と同じ
一四・〇〇—一六・〇〇	（発表要領は別記）
	（官公吏、団体役員は適宜の部へ参加）

九・〇〇—一〇・〇〇	（専門研究機関による特別発表）
一〇・三〇—一一・〇〇	
一二・三〇—一四・〇〇	

京都の保育界

— 今・昔 —

柳 澤 静 子

戦禍をうけなかつた私どもの京都市は今日では昔に交らぬ姿で毎日に動いています。

會て訪れていたときました方々にはやはり昔懐しい都としての印象がよみがえつて来る事と存じます。但し京都市の玄関京都駅は一昨年秋丁度全国国公立幼稚園長会第一回総会の朝のあの火災で消失しやつと今日では第一期工事を終りました新装の駅がやゝ京都市の玄関の感じを異にしています。

幼稚園も戦争のため一時休園をいたしましたが終戦と共に開園、只今では昔とかわらぬ状態に復しています。が

先生方は戦時中職をひかれた方が相当多く古いお馴染が減りましたことはまことに淋しい感じがします。會ての全国大会（播原に、仙台に、大阪、名古屋）に会毎に活躍された先輩諸姉も今は職をひかれました。塩崎多真姉亡きあと活躍された岩井つた姉は只今では幼稚園経営はおやめになつて保育界を去られました。市立日彰幼稚園に凡そ三十年間在職、京都市の幼児教育界をリードされた岡本アイ姉は、一昨年喜の字のよろこびを前に亡き数に入られました。全関西に、又全国に活躍された先輩諸姉は、第一線から失いました

が現在の京都幼児教育界は公私ともそれだけの立場に於てはりきつています。公私立幼稚園は古くから親しく手をとり合つてお互が斯道の發展に専念して来ました。

京都市保育会の誕生は、遠く明治の時代二十四五年頃に逆ります。最初実務者が相より相集つて幼児教育を論じ研究し夜の更けるを忘れて談じ合つたと古い記録に残されていきました。乏しき費用で会費の出どころもなく相寄るもの勿論手弁当で集つたとの事。

又明治二十四五年の頃、京阪神三市の幼稚園に集つてお互の研究経験を語り意見の交換をしたこれがそも、三市連合保育会の始めと記録されています。（残念乍ら記録が終戦後の整理のため今では不明となつています）

三市連合保育会（京阪神）が五市連合保育会（京都、大阪、神戸、名古屋、岡山）となり堺市を加え関西連合保育会と發展し大きく育ちました。年々才々所をかえてこの自主的に生れ育つた研究会が力強く開催されてついに回を

重ねること四十八回突に半世紀の長きにわたつての成長でした。昭和十八年十一月二十一日大阪市で戦争中に私たちは決戦服に身をかため大勢の集会はのぞまれず代表者のみが集つて催されたのを最後として戦争はこの会を中絶させました。併し数年ならずして昭和二十二年十月十七日新らしく発足した関西連合保育会は京都市立生祥幼稚園を会場としてめでたく第一回の大会をもつ事が出来ました。回を追えば勿論四十九回、併し占領下の私共には許されず会名はつゞけられましたが回は重ねる事は出来ませんでした。

第一回関西連合保育会は戦後日尙浅く交通機関も不備宿泊も意のままならぬ時ではありましたが、名古屋、兵庫大阪、京都、集るもの八百余人まことに力強い再出発でありました。久し振りの会合で集るもの何れも感無量お互の健在を喜び合つた事でした。そして斯道のための努力をお互に約して又会う日をと別れた事でした。爾後年と共に集るもの数を加え現在では全関西に

岡山を加え一千数百名の同志が一堂に会する盛況を見る迄にいたりました。凡そ全国に幼稚園関係の会のみならず

随分多くの会がありましようがかくも自主的に育ち發展し、しかも半世紀の長きに渡つて続けられ尙中絶後新らしく生れて又恙がなく育ちつつある会は他に例のないものではないでしょう。私共の他意なき幼児教育研究に集中した、しかも和の心によつてかたく結ばれた力強さと存じます。

明治二十四五年頃に誕生した京都市保育会は関西の保育界にも活躍をつゞけてりつぱに足跡を残しています。大正十五年頃には実務者保護者は勿論幼児教育に関心をもつ名士諸氏の後援を得て公立私立幼稚園は勿論のこと保育所も共に実務者、保護者うつて一丸となつて幼児教育進展の目的達成のため力強く京都市保育会が新らしく誕生しています。戦争の苛烈はついに一時会の解消のやむなき時代をうみ出しました。だが教育報国団と変形し公私それぞれ分散しました。併し終戦後再び昔日に

劣らぬ熱心さでもつて新発足することが出来ました。自らの力によつてそれ／＼出発しました。

京都市保育会（市内公立）

京都府私立幼稚園協会（私立）

両丹保育会（府下丹波丹後地方公立）

立）

山城保育会（府下山城地方公立）

それ／＼の立場に於て各の性格を生かして各自研究会をもつています。そして京都保育連盟としてお互の連絡をとつています。お互の研究に協力してきます。対外的には京都保育連盟として動いています。私共の京都市保育会は昭和二十一年六月市立幼稚園二十園が相より実務者、保護者、共々会員として戦前に優るとも劣らぬ熱意で保護者の協力支援のもとに実務者は幼児教育の進展のための努力を誓つて発足しました。以後保護者の熱心な協力によつて力強く活動しています。京都市保育会のおごきは即ち公立幼稚園のおごきです。昭和二十六年度は私共は幼児教育の重要さをもつと／＼社会一般に知ら

せたいとの趣旨から大きな事業として次の催しをしました。

一、おや子遊戯大会 十月
一、幼児面の展覧会 一月

・子供の絵はどうみるか。
・子供の絵はどう伸びるか。
附 幼稚園の生活(写真展)

京都市立運動場の陸上競技場を会場として二十二園の全園児(三千名)と全保護者が相より、高くかぶげた日の丸の旗の下で秋晴れの一日を楽しく且つ有意義に過しました。午前十時より午後二時迄、午前中は主園の園児が五班に分れてリズムに乗つての遊び、午後はおや子ともんのリズム遊びと競走遊び、会の準備は各園の先生方拳つてあたり、当日の会の運営、会の後始末整理には先生、保護者の協力によつてなされます。広い運動場に紙屑一つ残さず整理して引きあげる頃は西の空に太陽が大きく、赤く、沈もうとする頃です。「教育はあらゆる機会にあらゆる場に於てなされるものです。家庭に学校に、社会に、または朝に、夕に、

今日のこの大きな集りも又お互にのぞましい教育の場です……」と大会の挨拶にいつも申しまして一同の協力をのぞむのです。このおや子遊戯大会は京都市教育委員会との共催でいたします。回を重ねること三度。もはや市教育委員会健康教育課では年中行事の一つとしてはつきり予算化される迄になりました。今年も十月の行事として予定しています。

「豆天才画伯」「豆ピカソ」幼なくしてすばらしい絵をかく天才的なる子供が一時話題にのぼり子供の絵に一般人保護者が、関心をむけ出しました。が果して子供の絵をどんなに観ているか今迄の観方で子供をほんとうに伸ばしてやれたか、子供の絵にはもつと深い大きな意味があるのではないか、といつた点から私達は平素子達に接して子供から教えられた事をまとめそれによつて絵を通して子供を知り、又子供の絵を知る。そしてそれを子を持つ親達へ、又一般の人々にも及ぼしたいとの気持から、幼児面展覧会を藤井大

丸百貨店で一週間の会期で開催しました。会場には又幼児面のほかに幼稚園の生活を見てすぐわかるよう写真にして展覧しました。一年間の幼稚園の行事、一日の幼稚園生活の流れを、主としていたしましたが目瞭然来会者が非常に楽しく、楽しい中に理解されたようであることに好結果でした。幼児面はみずえ、すみえ、クレオン画、クレパス画、指絵、模様遊び、等を出品しました。絵の発達段階を示したものはこれ又非常に興味深く理解されたようでした。各園の全先生が数回に渡つて幼児面の研究会を催し後子供の絵のみかたを研究した上で指導にあたり子供の四月から一月迄の間に子供達が楽しんで遊んだ後の絵の中からそれ／＼出品したものです。非常に社会一般の関心をひかせる事が出来ました。又小学校の面の教育にも大きく示唆を与えました。

今一つの催は幼児教育に関する懇談会、これは、いづこも同じことと存じますが幼稚園は義務教育でないが故と

かく第二義的に考えられ、むしろ忘れられ勝ちです。それで毎学期一回宛市教育委員会事務局の関係者、教育長、教育委員、市長を招待して各園長、各園保護者代表一同会して懇談会を催します。お互に膝を交えて懇談の中にお互に幼児教育に関する意見の交換をいたします。膝を交えて和やかなうちでの懇談で日頃の意見が交わされて幼稚園を理解してもらうにまことによい機会です。京都は御承知の通り幼児教育発祥の地とも申すべき幼稚遊嬉場がお茶の水の幼稚園に先だつ明治八年十二月に設けられています。が残念にも一年余で閉鎖、その後時を経て柳池幼稚園として設置されました。明治二十一年頃より各学区に逐次設立されました。こゝ数年來六十周年の祝賀をすませた幼稚園が数園あります。併し本市は残念乍ら小学校一四三に対し市立幼稚園僅かに二二しかもその幼稚園が地域的に非常に偏在しています。それは京都市の過去の学区制がこうした結果を生んだもので所謂上京、中京、下京

といつた市の中央部富有区には早くから学区の力によつて幼稚園が設けられていたものです。現在では新市街地に市立幼稚園がなく従つてこの地域には私立幼稚園が設立されています。又保育所もその方面に多く設立されているわけです。市立幼稚園二二、私立幼稚園四五、市立保育所一八、幸い私立幼稚園は年々増加の現状ですが公立は僅か本年は一園増加のみです。本年は全国的傾向として非常に幼稚園入園適令者が多数であつたため本市としても入園希望者を残念乍ら全部收容しきれなかつた実状です。私共は幼児教育の重要性を叫び乍ら又一般社会も重要性をみとめ乍ら実際には入園希望者が希望を達し得ず幼児期の教育を受け得ずして終らねばならないような現在の京都市の有様です。

京都市の私共に大きな問題が残されています。それは幼稚園の増設運動です。一校下一園は勿論私共の願つているところですがまだ一私共にはそれは遠い彼岸です。機会ある毎に理事者

へも、一般社会へも訴えて幼稚園の増設に不断の努力をつよめたいと念願しています。

(筆者京都保育会々長)

保育応答研究会

再開御案内

日時 六月二十一日(土)午後一時半より

(毎月第三土曜日。八月は休会)

会場 フレーベル館講堂

講師 倉橋惣三先生

○皆様のお持ちよりになる保育の実際問題につき、倉橋先生を中心として出席者一同で、互に研究しあう、新しい企画です。多数の御来会を、お待ち受けします。(来会御随意・会費不要)

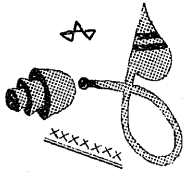
昭和二十七年五月六日

株式会社 フレーベル館内

保育応答研究会係

個別指導について

— 記録法による —



子 順 分 国

個人の尊厳、個性の尊重は、憲法、教育基本法、学校教育法を一貫して、民主主義社会形成の基礎的な精神である。私達はまず一人一人の子供をそれぞれ幸福になれるように考えて指導しなくてはならない。それには指導者が一人一人の子供を充分に知ることが先決問題である。一人一人の子供を知ることとは生やさしい問題ではない。絶えず子供達に接触することの必要はいうまでもないが、更に一步を進めて生活を共にしている間に子供の具体的な動きの中から子供を知るに必要な資料を蒐集しなくてはならない。蒐集した資料は必ずこれを記録に残すことを怠つてはならない。今迄の実践活動の中において最も貧困なものは記録である。この意味から逸話記録法による資料に基いてまず子供をよく知り、子供をよく知つた上に立つて、個別的な指導を実践することが、一人一人を幸福にする大切な一つの方法である。次に日々の逸話記録の中から具体的

な個人について記録と個別指導の実際を例示して見よう。

家庭環境

一、両親健在

一、昭和二十二年二月二十二日生

一、満四才 一人子 女兒

記録

一、大きな声で部屋を駆け廻る。門

の前でおしつこをする。(四、一

六)

一、自分の引出し帽子掛け下駄箱等

がわからない。(四、一八)

一、靴下がはけないと言つて大きな

声でわめく。(四、一九)

一、製作の時、自分の前に折紙のり

紙が無いと言つて泣く。(四、

二〇)

一、鬼ごつこで元気に遊ぶ。(四、

二二)

一、自分の帽子掛、引出し等まだ覚

えない。(四、二三～二六)

一、大きな声を出してわめく。(四、

二六)

一、このぼりのこいが折れない。

(四、二七)

一、特別に言はないと坐らない。

(五、一四～二二)

一、粘土でおだんごを作る。

(五、一七)

一、自分で物を探さないですぐベソをかく。(五、二二)

一、少し変つている。「遊ぶ時はバスケツトを置きましょう」と言

つても決して自分から離さな

ら。(五、二五)

一、今日もおべんとうの後自分から

バスケツトを離さず、一生懸命持つている。(五、二九)

一、まだ椅子に坐らない。おさえる

様にして坐らせる。(五、三〇)

一、運動会のリズム遊びが出来ない

その発表画も画けない。(六、五)

一、自由画が画けない、楽器ハンド
カスターを自分ではめる事が出
来ない。(六、九)

一、特に、「坐りなさい。」とらつし

やい。「置きなさい。」と言う迄
その辺をふらふらしてゐる。

(六、一一)

一、相変わらず何もしない。一日ぼん
やり過す。自由画が画けない。

(七、九)

一、今日はめずらしくナイロンのう
でわについで先生と話しをする

(七、一一)

一、あいさつがやつと出来る様にな
る。(七、一二)

指導の実際

入園当時は、唯無我夢中で大声を出し
て部屋をかけ廻つた。人の迷惑にもな
るし、お話しもきかれないからと、極
くわかりやすく説明する。しかし何の
反響もなかつた。又時々大声を出して
かけ廻る。私はそれから少しだまつて
見ていた。但し十日も経つと落着いて
来た。困つた事には、自分の引出し、
帽子掛け、靴箱等が容易に覚えられな
かつた。その度に子供を連れて行き、
巾着取つて場所を教える。それでもし

まう時には又わからない。クレヨン画
帳を持つてうろ／＼してゐる。五月に
入つてやつとわかつた。引出しにはい
つもクレヨンと画帳が入つていた。変
つてゐる一例として、「さあ坐りまし
よう」と言えば普通の子供は一度で坐
る事が出来るのに、この子供は坐らな
い。椅子があつても坐らない。私が無
理におさえる様にして坐らせないと決
して自分から坐る事をしない。その度
毎にそこに行き、坐らせる習慣をさせ
た。何か原因でもあるのかと思ひ様子
を見ていたが、別に何の原因も見つが
らなかつた。これも、しばらくの間に
直つた。一方では、あいさつも出来な
ければ、絵も画けない、一体何の喜び
で幼稚園に来るのか、私にはわからな
くなることさえあつた。お友達を作つ
てあげたが、余り遊ぼうともしない。
絵を画くときは、いつもごそ／＼と机
の下の方でかく。何を画いてゐるのか
わからない。自分は下手だから、何か
お友達から言はれないか、と言う気が

あるらしい。こういう子供こそ、ほめる事によつて、指導することが必要であると思ひ、小さなことでも良いから何か自信を持たせたいと言ひ考へて、此の絵について子供同士で批評させてみた。子供達は思ひまゝに絵について話し合つてゐる。「下手だ」「変だ」「小さい」「何んだかわからない」と全くその通りである。こゝでほめた事が指導上良い事か悪い事かわからないが、ほめ過ぎる程ほめてみた。「今日は一生懸命画いたので、ずい分上手に画きましたねえ。ほらこゝに可愛いお花も咲いてゐるしずい分お上手ね。先生もびつくりしてしまいましたよ。A子ちゃんだつて一生懸命画けばこんなに上手に画けるのね、又たくさん画いて見せて丁戴ね。」二三人の子供は、「あれが上手なのか。」と不思議そうに私の顔を見ていた。その時のA子の様子を見ると非常にうれしそつた。しかし他の子供に与えた影響はどうであつたか、心配であつた。そして、私

がつい可愛いお花と説明してしまつたが、私にはそう見えたのであつてその子は何のつもりで画いたのであるか。A子に話しが出来れば、こんな失敗は無かつただろうと思つた。しかしA子もお花を画いたのでだろうと、私は自分を自分で安心させた。それから後絵を画くと見せに来る。そこで少しづつ絵の指導を行つてみた。割合上手に画く様になつた。しかし性格の現はれであらうか、いつも小さい線の細い絵を画く、少しは絵に対する自信がついたらしい。

何故話しをしないのか。その原因を調べてみた。話しをしたくない時の心理として、場所の違い。恥しい気持。要求が過大な場合、生活環境の違い。その他いろいろあると思ひが、こういう場合の指導法としては、話しよい場を作る事、子供の生活に必要な話題を見つける事が必要ではないかと思ひ、無理にも話題を見つけ、そういう場を作つてみた。丁度ナイロン流行期だつた

ので、子供達は皆んなナイロンのうでわをやつてゐる。A子も両手にやつてゐる。「ずい分きれいなね。どなたに編んで戴いたの。」返事をしない。「先生に一寸貸して下さい。」貸してくれだ。「先生に丁度いいわ。先生戴こうかしら。」と言つてみた。返事をしなければならぬ反強制的な場に置いた。「いやよ。」と言つた。もう一度今のをくり返してみた。又返事をする。「それじゃ取つて丁戴。」と言つて私は手をひろげて出した。すると、「もつと手を小さくして」と言つた。こんな一寸した会話が話し出来るきつかけになつて、だん／＼話せる様になつたのかも知れない。それから後もいろいろ話をしなくてはならない場を与えてやり生活に必要な話題をみつけて、話の指導をした。正しい言葉への指導は、まづ普通に話し出来る様になつてから除々に直すことにして、最初のうちは唯話をさせる事に主力を注いだ。従つて言葉の使い方が少し違つていようが

今は言葉を随ず機会だとは思つていない。しかしその機会を逃さぬ様にして正しい言葉の指導を行つてゆかなければいけないと思う。あいさつ等でも無理に形式的に教える事は、意味のない言語指導ではなかるうか。と思つていたところ、七月十二日にその子は元氣よく部屋に入つて来た。私はかくれて見ていた。部屋に入つて第一にする事は何であろうかと。しかし意外な事に誰となしに、「おはよう御座います。」という言葉が自然に出た。私はとても嬉しかつた。一学期の最後にやつと、自分の自然の言葉として、あいさつの言葉が出たのであつた。「Aちゃんおはよう御座います。」と私も知らないうちに言つてしまつたのであつた。その日はみんなの前でA子の朝のあいさつについてほめた。ほめる事は、子供が小さいだけあつて、非常に必要な指導の手だての一つであるということの確信を深めた。A子の場合は大體九対一の割合でほめる指導をやつてゐる。

しかし生長するにつれて、指導法も変らなくてはならないと思うが、要は子供をよく見つめて、その機会をのがさない様にするのである。

四才児の心理的発達から考へても此の子供とは、非常に大きな違いがある事を見出した。入園当時と比べて少しは進歩し、成長したと思つてゐるが、研究はこれからである。テストの問題も残つてゐるが、まだ具体的なテストは行つてゐない。その結果も大きな研究問題となるであろう。絶えず心を配つてじつとこの子を見つめ乍ら指導していきたく。

逸話記録法だけが一人一人の子供を知る唯一の方法だとは言えない。たゞこの方法による記録をとることは、私達が観察に習熟するきつかけになり、子供の具体的な行動を理解する手がかりとなるところに特徴がある。子供が小さければ小さいほど、指導の實際は具体的な事柄について指導することが大事である。この意味で逸話記録法は幼

稚園及び低学年の子供に良い方法であると思う。毎日々々四十名以上の子供の行動について記録していく事は容易ではないが、あまりとらわれないで子供を帰した後で、記憶に残つてゐる程度のことを記録することから始めていけば決して困難ではない。これを指導の資料にし、評価の資料にする等については一層の研究を進めたいと思つてゐる。

(南山幼稚園)

(11頁より)

栄養、睡眠、鍛練によつては一年中、最も發育を促進することの出来る好機でもある。われ／＼はこの好機を逸することなく、乳児は乳児なりに、幼児は幼児なりに、又、虚弱児にはそれなりに、夫々適當の鍛練を行つて、来るべき冬の最悪の季節に対する抵抗力を強めておく工夫が肝要である。

第五回関東保育研究会

高 橋 壽 美 夫

第五回関東保育研究会は若葉薫る四月二十四日から三日間群馬県と県教委及高崎市と共同主催をこれに県(市)社会福祉協議会協力後援の下に高崎市立女子高等学校に開催された。文部省からも厚生省からも係官の臨場のなかつたことは年一度の大会だけに淋しいことであつたが、日保連から副委員長秋田美子女史のお見えになつたことは参会者一同の氣をよくするに充分であつた。参加施設と人員を表示すると次の通りである。

	(県内)	(他府県)	(計)
一、参加施設	幼稚園 二四	三九	六三
	保育所 二二	一三	三四
	幼稚園 一二四	六二	一八六
	保育所 九七	一九	一一六
二、参加人員 (会員)			三〇二

右の表によつて明かのように保育所参加の相当多いこととかく風評のある両者間のわだかまりの如きものは関東地区に関する限り憂慮すべき何もないことを事実の上に立証したわけである。

日程第一日は午後一時の開会式に始まり主催者側の挨拶、来賓祝辞の後二十年以上勤続者十五名の表彰があつた。ついで経過報告と日程説明があつて研究協議に入る。ここで関東大会の模様的一端を内容的にのぞいて見ることにするが積極的な場面の御想像を願いたい。

研究協議題

- 一、幼児期に於ける道徳教育について……略
(東京都清島幼稚園長 松石治子氏)
- 二、郡県単位の保育園のあり方
(埼玉県浦和幼稚園長 長沼依山氏)

○提案理由(長沼氏)「むしろあり方について詳しく述べらる。なるべく早く連合体になる必要がある。幼稚園と保育所のむつかしいそして悲しむべき犬猿の仲は矯正されねばならぬ。この関東の都県だけはせめて大乗の見地から大同団結してゆきたい。それには先ず反省すべきである。私立のもの、団結公立のそれが埼玉ではあるが横の連絡もついで各県の状況をお知らせ願いたい。日保連の人もいるので意見をききたい」

○東京都、K氏「東京では私公団結している。日保連以前からである。非常に仲よくしている。……」

○神奈川県、E氏「協議会と協会とが合同して団結している。自ら称して模範的な経営団結している。意見の対立は夫婦の仲にもあるが神奈川県はうまくいつている。……」

○千葉県、O氏「保健連盟、幼稚園協会、私立幼稚園連盟の三者が去年千葉県保育連合会をつくつた。つくつてから別に仕事もしないがけんかをしない。……」

○栃木県、B氏「戦争前は一緒にしていた。戦後保育所もふえて別になっている。団結の提案はしたがまだ連合体には進まない。猶、交渉努力を続行中である。……」

○群馬県、S氏「保育所は公私五十三、幼稚園公私二十四でありその中、県保育会へ四と二十二の参加がある。規模は小さいがスムーズに堅くやつている。本大会には加

入施設以外もたくさん協力している。然し皆団結を欲しているように感ぜられる。現場のものは組織如何にかかわらず団結しようとしてるように見受ける。」

○日保連、D氏「日保連の現状は仙台大会以来皆様に心配されている。社会福祉協議会児童部の仕事の中に保育所の全国的機関を作るについて何か摩擦があるように感ぜられているが、厚生省としても日保連の団体をどうしようというのである。新しい誕生に当つてじん痛のあるのは当然である。保健連合体を脱退して全国的のものを作るのだとゆうのは誤解であり時間的に解決出来るとうゆうのが根本的の見方である。……日本独立後の負算の決定は革命的であるがその波動が直接に吾々に響いている。自分達で作つた吾々の団体を作りあげよう。根本理念は誰からも制約さるべきものでない立派なものである。……」

○埼玉県、長沼氏「その地その土地にふさわしい団体の出来るよう念願するものである」(以下協議略)

つづいて国沢博教授の「幼児の精神衛生」と題する講演があり初日を終る。

第二日は午前九時から開会、五都県一粒えりの選手による研究発表と昨日に続く協議がありこの間には更に志村二郎教授のアメリカの幼児教育について講演もあり忙しい進行の中に盛会裡に大会の幕を用ざる。(群馬県保育会幹事)

官廳公示連絡事項

幼稚園教育理解のために

——小学校学習指導要領理科篇の改訂——

小学校教員に幼稚園教育を理解させ、幼稚園教育を受けて小学校に入学した児童に、幼稚園での経験が十分生かされる指導がなされるようにするため、このたび小学校において学習指導要領（コースオプスタディー）が改訂されたのを機会として、その各篇に幼稚園の項を加えることになつたことは既に述べたところである。これは、たんに小学校教員ばかりでなく幼稚園教員が小学校教育を理解するためのよい機会でもあるのでここに記してみる。

以下理科篇に示されている幼稚園の指導目標と小学校第一学年の指導目標とを摘記してみよう。

幼稚園の指導目標

- 1、太陽・月・星・雲に興味を持ち、それらの美しさを楽しむ。
- 2 a、天気にはいろいろあることがわかる。
- b、自然界におこるおりのいちじるしい変化に気づく

3 a、飼っているいきもの（いぬ・ねこ・うさぎ・にわとり

小鳥・きんぎよ等）に興味を持つ。

b、四季おりおりの花・果物・野菜に興味を持つ。

c、飼っているいきものや草花に親しみをもち、せわの手伝いをする。

4 a、元気で、安全に遊ぶことができる。

b、からだをきれいに保つように気をつける。

c、すききらいなく、またおちついて食事をするようにつとめる。

5 a、おもちゃ遊び道具に興味をもつて使う。

b、手近かな道具について、それが役にたつてゐることに気づく。

c、おとなのする技術的な仕事を興味をもつて観察する。

d、電車、汽車、自動車などの乗物を興味をもつて観察する。

小学校第一学年の指導目標

- 1、太陽や月や星に興味を持ち、童話的な見方から次第にはなれ、簡単な事実に気がつく。
- 2 a、山・川・海のような土地の形の変化に興味を持つ。
- b、いろいろな天気があることがわかる。
- c、自然界におこるおりの特徴のある現象に興味を持ち、自然に親しむ。

3 a、家畜・鳥・魚・虫などの種類や、くらし方に興味を持つ。

b、花・果物・野菜の種類や成長に興味を持つ。

c、動物や草花に親しみをもち、よこんでせわする。

4. a、からだやきものを清潔に保つように気をつける。

b、元気で安全に遊ぶことができる。

c、たべ物やたべ方に気をつける。

5 a、おもちゃや簡単な道具のはたらきに興味を持つて使う

b、身近な機械や道具が役にたつてゐることに気がつく。

なお、小学校の指導目標をきめるに当つて配慮した事からとして五項目をあげているが、その第五に次のようなことを記している。このことは学校教育の指導内容の一貫性という点から、幼稚園においても常に考慮されなければならないことである。

「ここに示す指導目標は、次の事からを配慮してある。

(5) 幼稚園の自然に関する学習のねらひに続き、また、小学校から発展する中学校の理科の目標に無理なく連絡するよう配慮したこと。」

国立大學附属幼稚園の保育料入園料に

ついで

昭和二十七年四月十五日文会総第二一三号で昭和二十七年四月一日以降の入学者の授業料等の改正について文部事務次

官から通達された。

幼稚園関係のものについて述べると、

1 昭和二十七年三月三十一日以前の入学者は、従前の通りで保育料は年額七二〇円である。

2 昭和二十七年四月一日以後の入学者は、

(1) 入園料 一〇〇円

(2) 保育料 年額一、八〇〇円

(3) 保育料の徴収期、徴収方法

(4) 保育料の徴収期は、すべて四月及び一〇月の二期とし各期の徴収額は年額の二分の一

(5) 特別の事情がある場合は月割分納を認める。

(文部省初中等教育局)

會から

○この頃の世相はまことに、大きな問題が多いことである。保育者も国に関する問題についてはもとより無関心ではいられません。平和論とか憲法論とかには、充分公正な心構えを以ていなくてはなりません。そのためには新聞紙でも雑誌でもラジオでも、出来るだけ参考して平静な判断力を持つていようにならなくては、国民としての心がけを欠くものです。

世界の大きな出来事を知らないで過すような不用意はゆるされません。○判断の誤りは、無智と狹隘とから起ると共に、気分の過度な興奮からも起ります。平生幼児に接するのを職としているものはまさか、極端な激情や破かい的な考え方を、其の仕事の上に直接に反映させたりすることはありませんが、その気分の影響は与えられないといえません。正しきを曲げることとは許されませんが、根本の気分は常に穩健中正をねらいとしていきたいものです。

○殊に、幼児は極端と知らず、偏ばを偏ばと知らず、その方に傾き易いものです。そういうことに一応の分別がついているものでも、誤謬に誘われ易いものです。幼児達無心のものに、当人が判断のつかないことを影きようさせたりするのは、この上もなく不都合なことです。

○この頃の世相をありのままに伝えている新聞やラジオには、所謂市井の出来事の中に、道徳に反し、常識に反したようなこと殊に、残忍極まることや、卑わい甚しいことが、毎日のように目に耳に触れて困ります。そういうことも、社会のニュースとして、たゞ目を覆い耳をふさいではいられませんが、そういうことの興味に惹かされて健全な常の心を失わせられるようになることは、気をつけなくてはなりません。そういうニュースの中には見出しだけで閉ぢておいて、朝の気もちを粗雑にしない方がいいことがあり勝ちです。少くも、幼稚園なり保育所なり、子供のくんに来ているときは、決して話したくないものです。そういう世相の中には、深く世を憂いなくては

ならぬようなこともありましようが、幼児保育とは距離も遠いことです。保育者としての心の波は、いつも清く平かに保つて、乱されないように心懸けましよう。

幼児の教育 第三卷 第七号

定価 金五拾円

昭和二十七年七月二十日発行

東京都千代田区千光前町一〇

編集兼 倉橋 惣三
発行者

東京都文京区大塚町三十五

お茶の水女子大学附属幼稚園内
発行所 日本幼稚園協会

印刷所 東京都板橋区志村町五番地
凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田神保町二ノ四
発売所 株式会社 フレーベル館

振替東京一九六四〇番
○本誌御購讀について注文申込その他はすべて發費所「フレーベル館宛」に願います。

お茶の水女子大學附属幼稚園試案

幼児指導要録記入の手引

A5判五二頁 定價三五円 一八八円

幼児指導要録の記入もいよいよ昭和二十六年頃から始められることになりました。各園それぞれその立場に於て御研究がなされていることと思われます。ここにお茶の水女子大學附属幼稚園の試案として「幼児指導要録記入の手引」が出されました。幼児の生活の實際と評価の尺度について客観的な正しい觀察の手引として一つの指針となるものがあります。幼稚園の諸先生の学年末の記入に際して役立つものと信ぜられるます。

及川ふみ先生案

たのしいおしごと

本誌十二月号に及川先生がお書き下さいましたよう
な全く新しい企画による特製手技材料です

B5判一六枚 定價四五円 一八八円

東京都千代田区神田神保町二ノ四

發行所 株式会社 フレーベル館

振替東京 一九六四〇番

厚生省兒童局編

待望の 保育指針 出づ!!

A5型 153頁 定價 130円 送料 30円

(お申込は振替又は小為替利用が便利です)

保育するということは安易なようで、なかなかむづかしい。こん度保育所のみならず、他の兒童福祉施設における保育の為に保育計畫の立て方保育兒童の問題など、兒童福祉施設一般にわたる保育の専門事項を取り纏め、こゝに「保育指針」として上梓するようになった。本書の活用如何はかかつて保育に携る者の手腕と技術にまつべきであらうと思う。

厚生省兒童局長 高田正巳序

【内容の一部】	保育の目標と原理	吉見 勝江	道徳の育成	キユツクリツヒ
	生活の環境と調整	渡島 藤	保育計畫と自発性	副島 ハマ
	身体機能の発達	斎藤 文生	保育計畫とは何か	珠川 善子
	精神の発達	宇島 義友	1-2才幼児の保育	鈴木 とく
	生活の指導	堀 要	乳兒院に於ける保育	星 きく代
	遊びの指導	竹日 俊雄	看護施設に於ける保育	高島 藤
能力の育成	副島 ハマ	保育の實際問題	堀 要	

東京都千代田区 財団法人 日本兒童協會 振替東京 一九五三二九番
神田区神保町一の一

8 月 号 予 告

観
察

キンダーブック

繪
本

KINDER-BOOK

第 7 集

〔 蜜 蜂 の く に 〕

第 5 編



☆お子さまの健やかな魂の御成育に
なくてはならぬ日本一の立派な絵本☆

解 説 付
A 4 判・16 頁・月一回発行
定価 45 円・送料 8 円

「蜜蜂のくに」

自然の知恵の不思議を
小さいお子さんに話して
あげるとは、楽しいこ
とだが、むずかしいこと
ですね、と此号の企画に
専門上の注意を借して下
さつた農学博士の某先生
と、構想と表現に豊かな創
意を惜まれなかつた武井
画伯は共に言つていら
れました。
むずかしいが楽しいで
すねと、編集部では言つ
ています。

株式 株式会社 フレーベル館 振替口座東京 一六四〇番
東京 都 千代田区神田 神保町二丁目 四番地
発行所